

郷土教育推進研究報告書

令和5年度（2023年度）

「郷土日野」指導事例

～ 第18集 ～



日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

目次

ごあいさつ	〈竹山弘志：教育センター 所長〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
	〈斎藤境栄：郷土教育推進研究委員会委員長 東光寺小学校 校長〉・・・・・・・・・・ 1
I 研究の構想	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
1 研究の主題	2 研究主題に迫る授業像
II 研究組織	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
III 研究経過	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
IV 実践事例	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～41
1 Aグループの研究	
	「郷土の魅力を発見し、伝えることができるひのっ子の育成」・・・・・・・・・・ 4～11
	「Change Food」「大すき！マイタウン日野」「とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～」
	「故郷への思い」 成果と課題 学習指導案
2 Bグループの研究	
	「日野の魅力を知り、郷土を好きになるひのっ子の育成を目指して」・・・・・・・・ 12～25
	「日野市の工業調べ隊！」 「レッツスタート！ぼくたちわたしたちのまち豊田～ぼくわたしのドリームプロ
	ジェクト～」 「日野のいいところ見つけ隊」 「はたらく人とわたしたちの暮らし」 「豊田若宮神社」
	成果と課題 学習指導案
3 Cグループの研究	
	「日野の良さに気付き、語れるひのっ子を目指して」・・・・・・・・・・・・・・・・ 26～34
	「四小の給食自慢をつくろう」「日野市の食べ物博士になろう」「八小の給食の良さをしょうかいしよう」
	「これからの食料生産～未来へのさまざま取り組み～」 「日野市の学校給食の良さを紹介しよう」
	成果と課題 学習指導案
4 Dグループの研究	
	「郷土を愛するひのっ子の育成を目指して～指導事例集の効果的な活用による授業作り～」・ 35～41
	①「梨博士になろう」「東光寺大根博士になろう」「ふるさと安全隊になろう」②「多摩川とともに生きる」
	③「東京都の発展に尽くした人々」
	リーフレット「身近な地域」を教材にしてみませんか～日野市の郷土教育17年分のデータが活用できます～
V 夏季研修会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42～46
1 日野宿のフィールドワークと教材化	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42～44
2 童謡「たきび」の詩人 巽聖歌と日野	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
3 中央線多摩川鉄橋と日野煉瓦	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
VI 1課2館との連携	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47～49
1 平山陸稲栽培	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
2 図書館の活動	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
VII 研究の成果と今後の課題	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
VIII 個人研究	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51～56
編集後記	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
奥付	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

～ ご あ い さ つ ～

第18集の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 竹 山 弘 志

国際化や科学技術等が急激に進展する中において、教育基本法前文の「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と進展に寄与する態度を養うこと」の意義を強く感じています。このことにおいても、本教育センターの郷土教育推進研究は、重要な役割を担う大切な事業の一つだと考えます。

本年度は、コロナ禍による様々な制約が緩和されたこともあり、研究主題である「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」を追究すべく計画された、役員会、推進委員会、夏季フィールドワーク、研究授業等を予定通り実施することができました。特に昨年度構築された「郷土日野指導事例」の検索システムを活用しての研究授業は、各校での活用促進につながる実践だと思います。今年度も1課2館（ふるさと文化財課、図書館、中央公民館）と連携した研究活動で、郷土教育推進研究委員会がとりまとめ編集した『「郷土日野」指導事例～第18集～』を発行することになりました。令和6年度から始まる第4次日野市学校教育基本構想の「地域共創プロジェクト」には、「地域を舞台として、ホンモノとの関わりの中で遊び、体験し学ぶこと」が示されています。各校では、総合的な学習の時間等において子供たちが探究的な学びができるように計画する際に、本指導事例集もご活用いただければ幸いです。結びに、郷土教育推進研究委員会の皆様、顧問の先生方、1課2館の皆様、ご協力いただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

地域を見つめなおし、地域を知り、地域を教材に授業をつくる

郷土教育推進研究委員会委員長

日野市立東光寺小学校 校長

斉 藤 境 栄

新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に移行し、感染症流行前に近い活動内容での郷土教育推進研究委員会の研究を進めて参りました。ご指導いただきました顧問の皆様方をはじめ委員の選出をいただいた各学校、ふるさと文化財課、中央公民館、図書館の皆様方に感謝申し上げます。夏季フィールドワークでは、日野宿周辺地区を巡りました。地域の文化財、建物、土地利用、地域を知ることにより、郷土教育が始まることを感じました。各学校の委員の先生方がフィールドワークで地域のことを深く知るための方法やその意義を知り、自校の地域を改めて見直し、授業作りにいかすことができました。

4つのグループそれぞれで研究授業を実施しました。日野の良さ、地域の良さを知り、郷土の魅力を発見し、発信する児童の育成を目指しました。児童の生活圏にある工場や神社など、学校生活で欠かせない給食、日野にゆかりのある詩人巽聖歌、授業者それぞれが勤務校の地域を分析し、グループのメンバーとともに授業をつくり、教材を工夫し、授業に臨みました。

Dグループの取組のおかげで、これまで蓄積された過去17の事例集に掲載されている貴重な指導事例が閲覧できるようになりました。事例集を参考、活用した研究授業も実施できました。郷土・日野に関心をもち、地域を知ることによって授業を構想し、準備し、実践することが大切であることを学ぶことができたように思います。今後のますますの研究の深まりと先生方、子供たちの学びが深まることを期待しています。

～郷土教育推進研究～

I 研究の構想

1 研究の主題 「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

第3次日野市学校教育基本構想（2019～2023年度）には、

- ・「疑問や驚きから生まれる問いを大切に、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどり着く過程を大切にします。」
- ・「子供たちは、地域で自分を感じ、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていく。」
- ・「子供たちは、ふるさとひのでの活動を土台として、その先の世界へ飛び出していきます。」
- ・「先生や大人は学びの促進者です。問いを深めてくれたり広げてくれたり、いろいろな考え方に合わせてくれます。」

など、郷土教育に深く関わる項目や、教育活動を進めていく上で大事にすべき事柄が示されています。

そこで、郷土教育推進研究委員会（以下、委員会）では、研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」として、郷土教育の進め方を創意工夫し、郷土教育を通して第3次日野市学校教育基本構想に迫ろうと考えました。

2 研究主題に迫る授業像

委員会では、研究主題の内容を皆が共通理解して研究を進めることが大事であると考え、研究主題に迫る授業像を下表のように明らかにし、共有しました。

	郷土への愛着を高める児童	→	地域と共に生きようとする児童
授業で獲得が期待されること	・ 郷土の人・こと・ものを知る。 ・ 郷土を身近に感じる。 ・ 郷土の良さや素晴らしさに感動する。 ・ 郷土を誇りに思う。 ・ 郷土の大切さ、かけがえのなさを感じる。 ・ 郷土の人々とつながる。 ・ 郷土に生まれ、郷土の一員である自分を自覚する。 ※「愛着」・・・心がひかれて、大切にしたいという思い		・ 郷土を大切にしようと感じる。 ・ 郷土の営みに協力しようと思う。 ・ 郷土に貢献しようと思う。 ・ 郷土を元気にしよう考える。 ・ 郷土を発展させよう考える。 ・ 郷土に生まれ、そこで生活している自他を大切にしよう考える。 ・ 自己の郷土への思いを発信し、郷土を愛する仲間を増やそう考える。 ・ 郷土で培われた自己の個性を生かし、将来他地域や外国においても自己の務めを果たすことができる資質を育む。
育みたい学習態度	～主体的・対話的で深い学び～ ・ 自ら課題、自ら解決…探究的に学習する。 ・ 人と関わることによって、考えを深めたり、新たな情報を得たり、協力・分担して研究したりする。 ・ ものごとを自分との関りでとらえる。 ・ 学んだことを通して自己の生き方を考える。 ・ 学んだことを発信する。		

Ⅱ 研究組織

役員会	教育センター所長	竹山 弘志	
	委員長	齊藤 境栄	(東光寺小学校長)
	副委員長	秋田 克己	(日野第三小学校副校長 Dグループ)
	指導主事	宮崎 友和	(日野市教育委員会教育指導課)
	郷土教育コーディネーター	高橋 清吾	(教育センター)
	郷土教育担当	尾形 斉	(教育センター)
<u>Aグループ</u>			
	世話人	北川のぞみ	(日野第六小学校)
		白石 誠	(日野第一小学校)
		市川 敦也	(日野第五小学校)
		秋山 洋介	(旭が丘小学校)
		秦 哲子	(ふるさと文化財課)
		飯田 千尋	(多摩平図書館)
	顧問	小杉 博司	(元日野第一小学校長)
<u>Bグループ</u>			
	世話人	磯村 俊介	(豊田小学校)
		廣谷 陽子	(平山小学校)
		高橋 類子	(滝合小学校)
		山田 繭子	(南平小学校)
		山口 彩菜	(第二幼稚園)
		高橋 秀之	(ふるさと文化財課)
	顧問	會田 満	(元渋谷区立常磐松小学校長)
<u>Cグループ</u>			
	世話人	渡辺 大	(日野第四小学校)
		佐藤恵美子	(潤徳小学校)
		船引 颯太	(日野第八小学校)
		高久 直	(夢が丘小学校)
		谷村 建哉	(七生緑小学校)
		谷 剛毅	(中央公民館)
	顧問	吉野美智子	(元百草台小学校長)
<u>Dグループ</u>			
	世話人	柿崎麻理子	(仲田小学校)
		岡村 大地	(日野第三小学校)
		小林 彩香	(日野第七小学校)
		小澤 正史	(東光寺小学校)
	顧問	川島 清美	(日野第三中学校長)

Ⅲ 研究経過

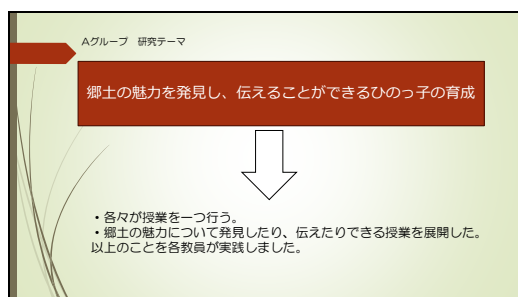
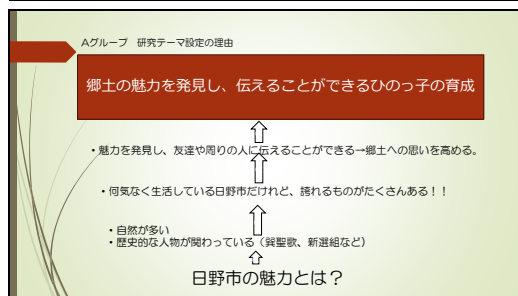
月・日・曜	活 動 内 容	月・日・曜	活 動 内 容
5・16・火	委嘱状及び辞令伝達、顔合わせ	10・24・火	B・Cグループ研究授業
6・27・火	グループ研究	11・28・火	A・Dグループ研究授業
7・25・火	夏季研修、日野煉瓦日野宿フィールドワーク	12月	研究のまとめ、成果と課題等作成
8・22・火	グループ研究、指導案検討	1・30・火	郷土教育研究発表会
9・21・木	グループ研究、指導案検討	2・13・火	教育センター研究発表会

Ⅳ 実践事例

1 Aグループの研究

令和5年度
Aグループ
郷土の魅力を発見し、伝えることができる
ひのっ子の育成

世話人 北川のぞみ (日野第六小学校)
白石 誠 (日野第一小学校)
市川 敦也 (日野第五小学校)
秋山 洋介 (旭が丘小学校)
秦 哲子 (ふるさと文化財課)
飯田 千尋 (多摩平図書館)
顧問 小杉 博司 (元日野第一小学校長)



Aグループ 授業実践
日野第六小学校 5年 総合的な学習の時間 指導者 北川のぞみ
「ChangeFood」
めあて 日野市の食について調べよう

● 日野市の食について調べよう

グループ	調べたこと	調べたこと	調べたこと
グループ1	日野市の食について調べよう	日野市の食について調べよう	日野市の食について調べよう
グループ2	日野市の食について調べよう	日野市の食について調べよう	日野市の食について調べよう
グループ3	日野市の食について調べよう	日野市の食について調べよう	日野市の食について調べよう

【振り返りより】

- ・日野市でこんなにたくさんの種類の野菜や果物を作っていると知った。
- ・日野市でも農家が減少していると知って、日野産野菜がなくなるのは、悲しいから、残していきたいと思った。

◎成果

- ・日野市は、工業だけでなく農業も行われていることを理解した。
- ・普段食べている日野の農産物と調べたことをつなげて考えられた。
- ・絵巻を通して食べている日野産野菜を調べていきたいと考えることができた。

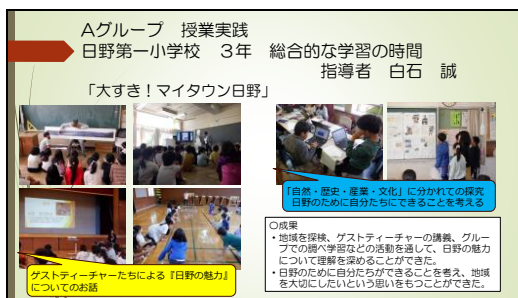
◎課題

- ・ゲストティーチャーを呼び、さらに身近に感じさせたい。
- ・また、伝えることにつなげられていないので今後調べたことを伝える機会を設けたい。

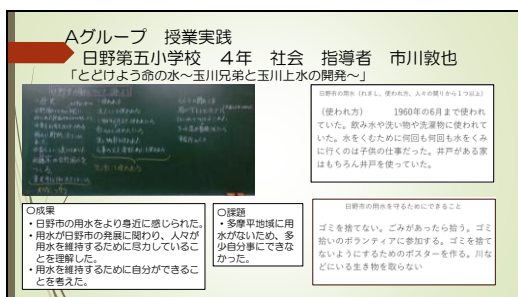
Aグループでは、まず「自然が多い、巽聖歌や新選組など歴史的な人物が関わっている」という魅力が日野市にはあると考えました。そこで児童にも日野市には、誇れるものがたくさんあると感じてもらい、伝えることができるようになってもらいたいと思い、「郷土の魅力を発見し、伝えることができるひのっ子の育成」というテーマを設定しました。

研究テーマにのっとり、各々が郷土の魅力を発見したり伝えたりできる授業を作成し、実施しました。これから各々の実践について紹介します。

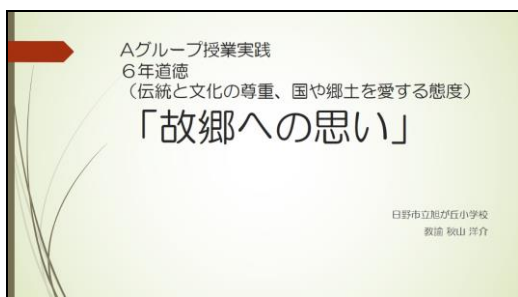
日野第六小学校の5年生では、総合の食糧問題について探求学習を行う過程で日野市の食について学習しました。日野市では、野菜が多く作られていることを理解しました。「たしかにブルーベリー作っているところ見た。」と普段見ている景色とつなげて考えることができていました。今回は、資料やインターネットで調べましたが、実際の農家さんに来てもらい、話を聞く方がより身近に感じられるので、今後の学習で検討していきたいと考えています。



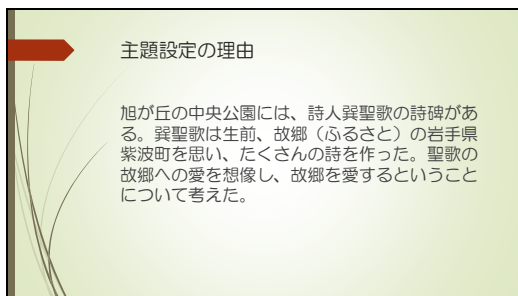
日野第一小学校の3年生では、総合的な学習の時間で、日野の魅力について探究しました。地域を探究したり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして、日野にはたくさんの魅力があることを知りました。その後、それぞれの興味関心に応じて自然・歴史・産業・文化の四つのグループに分かれて調べ学習を行い、分かったことを発表し合うことで、日野の魅力についてさらに理解を深めました。さらに、日野のために自分たちに何ができるかを話し合いました。「日野のよさを伝えるためにポスターを作ろう」「日野用水をきれいにするために美化活動しよう」など、自分たちにできることを考えることができました。学習を通して、児童は自分たちの暮らす地域にたくさんの魅力があることを知り、地域のよさを大切にしたいという思いをもつことができました。



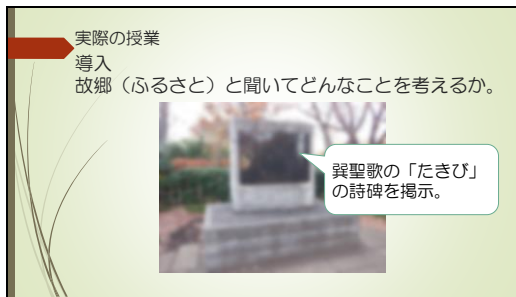
日野第五小学校の4年生では、玉川上水の学習と関連づけて日野市の用水について学習しました。日野市にはたくさん用水があることや水の郷100選に選ばれていることを知り、関心をもちました。そして、学習を進めていく上で、日野市の用水の歴史、使われ方、人々の関りについて興味のあるものを調べました。調べたことをもとに日野市の用水を守っていくために自分たちにできることを考え、オクリンクにまとめました。成果として、児童が日野市の用水について身近に感じたり、用水が日野市の発展に関わったり、人々の尽力したりしていることを理解しました。課題としては、多摩平地区には用水がない（黒川水路のみ）ため、あまり自分事として考えられなかった児童もいました。



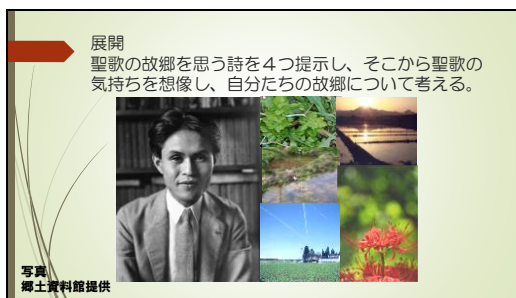
旭が丘小学校6年生道徳での研究授業について報告します。旭が丘地区に住んでいた「たきび」の作者、巽聖歌のふるさと岩手県紫波町への思いを感じ、自分にとってのふるさととはどのようなところかを考えていきました。



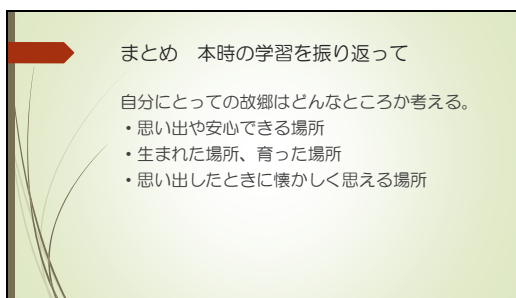
聖歌の作る詩には、故郷岩手県の自然を歌ったものが多く、東京で働きながら、故郷を考える聖歌の思いが強く感じられる作品があります。その聖歌の思いを想像し、故郷を愛する心について考えました。



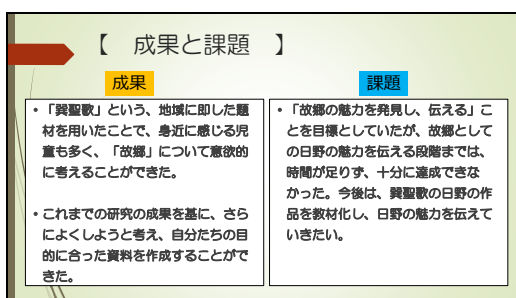
導入では、「ふるさととは」と聞くと、住んでいるところ、田舎、祖父母の家などの意見がありました。そこで、旭が丘中央公園にある「たきび」の詩碑を見せ、旭が丘にゆかりのある異聖歌のことをとりあげていきました。低学年のころから異聖歌の学習をしたり、異聖歌にちなんだイベント「たきび祭」に携わってきたので、身近なものとなり、よい反応でした。「ふるさとのうた」という自作教材を読み、異聖歌はふるさとに対しどのような思いがあったのかを考えていきました。



異聖歌の故郷を思う気持ちを詩から、想像していきました。よりイメージをもちやすくするために、詩に出てくる言葉の解説、実際の紫波町の風景写真を用いるなど、教材の工夫も行いました。



展開後段では、児童自身、自分にとっての「ふるさと」について考え、意見を交流し改めてふるさとの良いところ、大切にしたいところを振り返りました。この後、旭が丘の歴史の移り変わりやたき火祭について郷土資料館の方や地域の方からご講演いただき、ふるさとに対する理解を深めていきます。



グループで協働して行った異聖歌の授業の成果と課題です。成果は、「異聖歌」という旭が丘地区に即した題材を基に教材を開発できたことです。自分たちの学校が参加している「たきび祭」の写真、学校近くの公園にある異聖歌の記念碑の写真、旭が丘で暮らした異聖歌が残した故郷を想う4つの詩への児童の反応がよく、故郷とは何かを意欲的に考えようとする様子が見られました。これまでの旭が丘小学校の異聖歌についての研究成果を基に、グループで協力して自分たちの目的に合った資料を作成することができました。

課題は、授業の中で目標としていた「故郷としての日野の魅力を伝える」段階までは、時間が足りず、達成できなかったことです。それでも、今回の教材を用いたことで、児童が自分たちの住む地域により興味関心をもち、これから日野市のよさについて理解を深めていくきっかけとなったのではないかと思います。

第6学年 特別の教科道徳 学習指導案

日時 令和5年11月28日（火）第5校時

学級 日野市立旭が丘小学校 6年3組

児童数28名

指導者 秋山 洋介

1 教材化の意図

『歩こう 調べよう ふるさと七生』から巽聖歌のページを開くと、本校の学区域である旭が丘に住んでいたことを知ることができる。記念碑がある旭が丘中央公園は、本校児童の絶好の遊び場である。数々の名作を生みだしてきた巽聖歌を知り、身近に感じられるように教材化することにした。

歴史上の人物をよく知る方法として、伝記を読むことが挙げられる。伝記はその人物が主人公として書かれているため感情移入をしやすい。そこで、巽聖歌を主人公とした伝記を作ることではできないかと考えた。巽聖歌の足跡が分かるようにすることを念頭に置きながら、巽聖歌を身近に感じられるようにすることを目指した。

資料として、郷土資料館の展示パネル、郷土資料館が発行している資料、巽聖歌の作品の載った書籍、平成29年の郷土教育推進研究報告書を調べた。巽聖歌が日野について言及した詩なり文章なりを探したが、日野に住んでの活動は、児童詩の作者としての確固たる地位を築き各地に出張していたようで、その各地で見たものを詩にしていることが多いようであった。平成29年度の郷土教育推進研究でも取り扱っていた詩、『雲雀の声は』で日野の情景が出ていて、春の畑や競馬場の様子を歌っている。『歩こう 調べよう ふるさと七生』にも載っている『ぼくらの団地』では、その日野の様子が変わっていくことを歌っている。この辺りの時期を伝記にすることも考えたが、手元の資料日野での生活を描くことが難しかった。

巽聖歌の詩を読むと、故郷日詰町への愛がとても強い。このことは、故郷への思いを学ぶことにつながるのではないかと考えた。特に若いころの詩は、その思いがまっすぐに読者に伝わるものが多い。そこで、聖歌が生まれてから東京に出るまでの伝記を作り、故郷への思いを考えろという教材を作ることにした。

2 主題名 「故郷への思い」 （ 内容項目 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ）

3 教材名 「故郷の詩 ～巽聖歌～」

4 主題設定の理由

自分が生まれ育った土地には、ずっと忘れない思い出が残るものである。山や川や海などの自然、周りにある建物、歩いた道、遊んだ公園、出会った人々などが記憶に残り、それが郷土を愛すると心となっていく。

日野市にゆかりのある詩人巽聖歌は、明治38年に岩手県紫波郡日詰町に生まれた。東京の時事新報社で働くことになり上京する。その後も仕事の関係であたり世の中の情勢であたりで、岩手に戻ったり、東京に出てきたり、福岡で働くことになったりと住まいを変えた。昭和23年には日野に住まいを作った。

聖歌の作る詩には、故郷岩手県の自然を歌ったものが多い。幼少時代から自然豊かな日詰で、自然を愛して育った事が詩から伝わってくる。特に初期の作品には、東京で働きながら、故郷のことを考える聖歌の思いがひしひしと感じられる。その聖歌の故郷への愛を想像し、故郷を愛するという事について考える。

5 指導の工夫

(1) 巽聖歌が主人公の物語を資料にする。

- ・巽聖歌が主人公の三人称物語を資料にする。史実に基づきながら、当時聖歌が考えたと思われるところを、巽聖歌の言葉として表現した。

(2) 巽聖歌の詩を扱う。

- ・故郷を愛する心が伝わってくる詩をいくつか取り上げ、そこから巽聖歌の思いを想像する。

(3)「地域の人材」の利用。

- ・ふるさと文化財課学芸員の秦哲子さんから「巽聖歌が暮らした旭が丘の話」、地域の田中さんから「地域の方がたきび祭りを始めたきっかけ、続けていく思い。」などを話してもらうことで、郷土を大切にしようとする思いを強めていく。

6 児童の実態

巽聖歌については、2年生の時に中央公園で「たきび祭り」に参加しているので、ほとんどの子が巽聖歌を身近に感じることができている。巽聖歌が日野市に住んでいた詩人であること、童謡「たきび」の作者であることはすでに既習事項である。

授業の中で巽聖歌の詩を利用し、日野に自然がたくさんあることが写真や文章からとらえることができた。まだ自分の故郷の良さを知ることは難しいが、遊びで過ごす場所や地域の方との触れ合いを思い浮かべると故郷の良さに気付けると考える。終末で自分の故郷について考える場面で、「日野市の良さはどんなところにありますか。」の発問で自分ごととして考え日野市の良いところを伝え合えるようにしていく。

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・巽聖歌の故郷への愛を想像し、故郷を愛する気持ちを考える。

(2) 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・ 予想される児童の反応）	○指導上の留意点 ☆評価
導入	1 故郷について考える。 ○故郷（ふるさと）と聞いてどんなことを考えますか？ ・自分たちが住んでいるところ。 ・近くに川がある。	
展開	2 資料「故郷の詩 ～巽聖歌～」を読んで考える。 ○故郷を離れ横須賀に行くことに決めたとき、七蔵はどんなことを思っていたのでしょうか。 ・東京でがんばるぞ。 ・出版社で働けるかな。 3 故郷を思う七蔵の気持ちを考える。 ○七蔵にとって、故郷とはどんなところでしょうか。詩を読んで考えましょう。 ・母やきょうだいが住んでいるところ。 ・原っぱがあり、そこで遊ぶのが楽しい。	○巽聖歌の石碑の写真を掲示する。 ○巽聖歌がまだそのペンネームを使う前の時代である。資料では本名の七蔵を使っている。巽聖歌の本名について説明する。 ○「故郷」という言葉について説明する。 ○別紙資料の詩を読む。 4つの詩を読み、七蔵の故郷を思う気持ちを想像させる。どんな思いで書いたのか。 ○一つの詩を選ぶ。その詩から七蔵にとっての故郷はどんなところか考えさせる。
	4 日野市の良さについて考える。 ○自分にとって故郷とはどんなところでしょう。 ・友達とたくさん遊んだ場所。 ・優しく声をかけてくれる人がたくさんいる。	☆故郷を大切に思う気持ちをもてたか。 ○日野市の魅力を発信するようにする。
終末	5 教師の説話を聞く。	○担任の郷土についての話をする。

(3) 評価の観点

- ・故郷を愛する気持ちをもてたか。

8 本時の授業から考えられる今後の発展

(1) 巽聖歌と日野とのつながりについて考える

- ・聖歌が日野に住まいをもったのは、上京して住むところを探していた時に、短歌の弟子が日野に持っていた家を世話してくれたということである。当時の日野は桑畑の広がる、自然の多い所であった。資料ではその当時の理由を詳しく知ることができなかったが、世話をしてもらったということだけではなく、岩手の自然が重なるような、そんな気持ちを抱いたのではないかと想像する。

児童にとっては日野の良さを考えることが終末の振り返りとなるが、聖歌が日野を選んだ理由を考えることが、日野の良さ、自然がたくさんあるという良さを考える上で役に立つと思われる。

(2) 巽聖歌の詩の学習

- ・巽聖歌が作った詩は、『赤い鳥』に掲載されていることから、子供に向けての詩が多い。言葉の調子や、リズムがよく考えられている。詩を取り上げて読んで覚えることもよい学習となりうる。暗唱すると、美しい言葉を学ぶことができるであろう。日野市ゆかりの作家の詩を覚えることは、郷土教育につながると思われる。

9 参考文献

- ・『平成29年度 郷土教育研究報告書(6) 地域に生きる「巽聖歌の心」』
- ・『ふるさととは子供の心 巽聖歌の詩と生涯』内城 弘隆 編著 ツーワンライフ出版
- ・『たきびの詩人 巽聖歌』日野市郷土資料館
- ・『巽聖歌作品集(上)(下)』巽聖歌作品集発行委員会
- ・令和元年度 日野市立旭が丘小学校 尾崎恒平主任教諭 授業指導案

故郷の詩 ～巽 聖歌～

6年 組 名前【 】

○『七蔵にとって故郷とはどんなところ
でしょう。』詩「 」

☆『自分にとって故郷とはどんなところ
でしょう。』

感想

ふるさと し 故郷の詩 ～ たつみ せい か 異聖歌 ～

日野市の旭が丘には、詩人^{たつみせい か}異聖歌の「たきび」の詩碑があります。旭が丘中央公園では、毎年十二月に「たきび祭」が行われています。今も人々に親しまれる「たきび」の詩を作った異聖歌は、どのような人だったのでしょ



「たきび」の作者異聖歌
(郷土資料館提供)



たきび祭 2019年(令和元)

うか。
日野市に住んでいた詩人でどうよう作家の^{きさつ か}異聖歌(本名 ^{のむらしちろう}野村七蔵)は、自然ゆたかな村、岩手県^{いわてけん}紫波郡^{しわぐん}日詰町^{ひづめまち}に生まれました。七人兄弟の末っ子で、家族とくらしていました。

^{しちそう}七蔵は小学校のころ、「暗算坊」と呼ばれるほど計算が速く、成せきゆうしゅうでした。小学校^{そつぎょう}卒業後には、さらに上の学校に行き勉強をしたかったのですが、早くに父をなくし、母一人で多くのきょうだいを育てている中、わがままを言うわけにはいかず、兄のかじ屋を手つだいすごしました。

^{さい}七蔵が14歳の時です。友達の家遊びに行った七蔵は、当時^{だいにゅうこう}大流行していたざっし『赤い鳥』を見せてもらいました。『赤い鳥』はわくわくするような^{どうわ}童話や、美しい詩がたくさんのもっていました。七蔵はそのざっしに心をうばわれ夢中で読みました。そして読んでいるうちに、自分も『赤い鳥』にのっているような童話や詩を作ってみたいと思うようになりました。

七蔵はかじ屋で働きながら、詩を作るようになりました。当時は『赤い鳥』の様な子供向けのざっしがたくさんありました。七蔵は作った詩をざっしにおくるようになりました。

ざっしを作っている会社は東京にありました。七蔵の作品を読んだ出ばん社の人が、七蔵を東京によぼうとしましたが、七蔵がまだ18歳だということを知り、会社の人は、若すぎるとさいようを見送りました。

七蔵はそれでも東京に行く夢をあきらめませんでした。詩を作る友だちをたより、東京に近い^{かながわけん}神奈川県^{よこすか}の横須賀に住むことにしました。

横須賀で計算のさいのうを生かして会計の仕事をするかたわら、詩を作ることも続けました。横須賀はみなと町で、外国の文化がまざり合った町でした。あわただしく行きかう人々と、東京の出ばん社で働けるのかという不安もまざり、七蔵は故郷の事をなつかしく思うようになりました。「兄弟は皆元気でやっているだろうか。母は病気せずに元気にすごしているだろうか。」

そんな時に思い出したのは、昔、故郷で作った、『母はとっとと』という詩でした。小さいころ母の背におぶわれながら、真っ赤なヒガンバナを見たことが思いうかびました。七蔵は故郷からはなれ、こいしい思いの強い今こそ、故郷のことを書いた詩を『赤い鳥』におくろうと思いました。

七蔵の思いは通じました。『母はとっとと』は『赤い鳥』で初めての入選となり、ざっしにのりました。七蔵のうれしかったことといったらありません。『赤い鳥』を読んで始めた詩作りで、そのざっしにのったのです。

2 Bグループの研究

**令和5年度
Bグループ**

**日野の魅力を知り、郷土を好きになる
ひのっ子の育成を目指して**

世話人	磯村 俊介	(豊田小学校)
	廣谷 陽子	(平山小学校)
	高橋 類子	(滝合小学校)
	山田 蘭子	(南平小学校)
	山口 彩菜	(第二幼稚園)
	高橋 秀之	(ふるさと文化財課)
顧問	會田 満	(元渋谷区立常磐松小学校長)

【研究主題】
『郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする
ひのっ子の育成』

日野市の土地の特色、
土地活用、工業・農
業について知りたい

地域資料の活用方法
を知りたい

地域の魅力を発見
したい

日野のよさを伝える
授業づくりをしたい

日野にある神社につ
いて知りたい

【Bグループ 研究テーマ】
「日野の魅力を知り、郷土を好きになる
ひのっ子の育成を目指して」

【実践①研究授業】

5年生 総合的な学習の時間「日野市の工業調べ隊！」
滝合小学校 高橋 類子

社会科「日本の工業生産」で
学んだことを生かしたい。

日野市でも多くのものづくりがさ
れていたことや、企業誘致がされ
た経緯などについて知ってほしい。

総合的な学習となるよう
課題設定をする。

文庫は日本製の
物が多いけれど、
洋装はアジアの
国が多いね！

調べたい企業や
工場は、日野市
内のどこにある
のかな？

歴史について資料のどこに
書いてあるよ！

分けて調べよう！

成果(○)と課題(●)

○昨年度、旭が丘小の先生が実践されたパワーポイントを活用したことで、児童の関心意欲を高め、調べたい企業や工場を決めることができました。

○インターネットの情報だけではなく、紙の資料から探す活動を取り入れ、児童も課題解決をしようと努力することができた。

●郷土資料館から提供された資料が大人向けの文章表記だったため、小学生でも使いやすい資料を用意できるとよかった。

Bグループでは、今年度の郷土教育の研究主題をもとに、どのような取組をしたいかメンバーで出し合いました。

全員に共通することとして、「幼児児童が郷土のよさや魅力に気付き、親しみをもってほしい」「そのための教材開発をしていきたい」という2点があげられました。そこで、今年度のBグループの研究テーマを『日野の魅力を知り、郷土を好きになるひのっ子の育成を目指して』としました。

滝合小学校での研究授業について、報告いたします。5年生の社会科『日本の工業生産』で学んだことを生かしたいと考え、総合的な学習の時間で「日野市の工業調べ隊！」を行いました。子供たちの興味や関心が高まるように、以前に作成されたパワーポイントを活用し、かつて養蚕が盛んだことや、昭和恐慌により、企業誘致をしたことで日野市内に多くの企業や工場があったことを理解できるようにしました。その結果、企業や工場決めも素早く行い、どのようなことを調べたいかを考えることができました。

研究授業では、学芸員の方から郷土資料館の企画展の資料を借りて、調べ学習の続きを行いました。普段はインターネットから情報を得ることがほとんどですが、今回は資料から必要なことを選び、ワークシートに記入する姿が見られました。また、日野自動車によるものづくり教室を通して、調べたことの理解を深めることができました。借りた資料が大人向けであったため、文章表記が難しく、漢字の読み方や意味を理解するのに苦労する子供もいました。今後もこの学習を継続していくためには、児童向けの資料の作成が必要だと感じました。

【実践②】6年生『レッツスタート！ぼくたちわたしたちのまち豊田～ぼくわたしのドリームプロジェクト～』 豊田小学校 篠村 俊介

①豊田の町ってどんな町？

- ・豊田の町のよいところは、
- ・豊田の町の課題は、

②豊田の町をもっとよい町にするには、

- ・ボイ捨てのない町になったら気持ちよく生活できる。
- ・違法駐輪がなくなったらもっと快適だと思ふ。

③実際に活動しよう

- ・地域の人がボイ捨てについてどう思っているのかアンケートをとって調べよう。
- ・ごみ拾いをしていたら、道端にボイ捨てが多いのに気が付いた。

④分かったことをまとめて発表しよう

- ・これから時間を見付けて清掃活動に取り組みたい。
- ・豊田の町がもっとよくなるために自分ができることを見つけたい。

成果（○）と課題（●）

- 自分たちの町のために行動する姿が見られた。
- これから自分たちが豊田の町をよりよくしようという思いをもつことができた。
- 地域人材を活用することができると、「地域のよさを受け継ぐ」という視点をもてたのではないだろうか。

豊田小学校では、まず、地域のために自分たちに何ができるかを考えさせました。活動計画を立て、実際に地域に出て活動することをして、さらに主体的に関わりたいという声が出てきました。進んで地域に関わったからこそ、地域に愛着をもつことができたのではないかと考えます。さらに児童の思いを高めたり広げたりするためには、地域の人材を活用することが必要だと感じました。

【実践③】3年生 総合『日野のいいところを見つけ隊』 平山小学校 廣谷 陽子

①町探検や社会科見学で日野の町について知る。

②資料やインターネットを活用して、調べる。

③くわしく調べたいテーマを決め、新聞やスライドのまとめを発表する。

成果（○）と課題（●）

- 児童が日野の良さについて考える機会となった。
- 新たな日野の魅力を知り、自分の住む町への関心を高めることができた。
- 3年生の実態にあった資料を見つけることが難しく、児童の実態に合った資料の作成が必要である。

平山小学校では、町探検や社会科見学を通して、自分の住んでいる町のよいところを再発見する学習を行いました。一人一人が日野のいいところを考え、学習テーマを決めて、資料やインターネットを活用しながら調べ学習に取り組みました。そして、新聞やスライドにまとめて発表しました。調べ学習を進める中で、新たな疑問が見つかった際には、実際に現地に行ったり、インタビューをしに行ったりして、主体的に学習に取り組めるようにしました。この学習を通して、子どもが日野の魅力に気付き、自分たちのまちについてもっと知りたいという意欲を高めることができました。調べ学習をする上で3年生の実態にあった分かりやすい資料の作成や活用が課題となりました。今後、活用できる資料を増やすことが必要であると感じました。

【実践④】3年生社会「はたらく人とわたしたちのくらし」 南平小学校 山田 陽子

梨農園を見学

新聞にまとめる

成果（○）と課題（●）

- 身近なところで梨づくりを行う方から、話が聞けた。
- さまざまな工夫をして、美味しい梨づくりをしていることが分かった。
- 実際に梨を食べて、地元で作られる野菜や果物に興味が高まった。
- 梨以外の農家にも話が聞けるように、教員が地域をより知る必要がある。

南平小学校では、農作物やそれらを作る人々を通して、子供たちが日野の魅力を感じられるように学習を進めました。まず、日野市のホームページから、身近なところで梨を作っていることに気付かせました。梨農家さんを訪ね、農家さんが大変な作業を一年を通じて行っていることや、様々なところに梨を出荷していることが分かりました。その後、見てきたことや分かったことを新聞にまとめました。今後は、他の農家さんや農作物を取り上げることで、日野の魅力をさらに知ることができるのではないかと考えます。教員自身が地域を知り、教材をもっと掘り下げていくことが必要だと感じました。

【実践⑤】4・5歳 豊田若宮神社 第二幼稚園 山口 彩葉

導入 神社訪問 まとめ：紙芝居づくり



成果（○）と課題（●）

- 視覚化して伝えたり、実体験を多く取り入れたことで興味をもって参加する幼児が多かった。紙芝居作りを通して、神社をさらに身近に感じていた。
- 保護者を巻き込んで行うことで、郷土教育の啓発ができた。
- 今年度学んだこと、作成した紙芝居をどのように活用していくかが課題である。

第二幼稚園では、豊田の若宮神社を取り上げました。まず、若宮神社に祭られている神様のことや、神社にあるものなどをスライドを通して話しました。その後、実際に神社に出かけ、境内や神殿の中を見学しました。まとめとして、若宮神社に伝わる『民のかまど』という昔話の紙芝居づくりを行いました。視覚化して伝えたり、実体験を多く取り入れたたり、紙芝居作りの場を設けたりしたことで、興味をもって活動に参加し、神社に親しみをもつ幼児が多くいました。保護者を巻き込んで取組を行うことで、郷土教育の啓発ができたことも成果となりました。

【成果と課題】

成果	課題
・幼児児童が日野市について学習することで、自分の住んでいる町について興味をもち、日野市の良さについて考えるきっかけとなった。 ・学芸員の方がグループにいたことで、日野についての知識を広げたり、資料を活用したりすることができた。	・資料選びの難しさを感じた。 ・今年度の学びや実践を次年度以降も活用できるように引き継いでいきたい。

グループ研究の成果と課題です。

まず、幼児児童が日野市について学習することで、自分の住んでいる町に興味や関心をもち、日野市のよさについて考えるきっかけとなりました。まずは知る・学習する機会を保障することが大切だと感じました。また、メンバーに学芸員さんがいたので、日野に関する専門的な知識を得ることができ、私たち自身の学びが高まり、よりよい学習につなげることができました。

一方で、資料選びの難しさを感じました。今後は、ふるさと文化財課や図書館などと連携し、児童向けの資料を作成していく必要があると考えます。また、今年度の学びや実践を次年度以降に伝えていくことも課題です。

以上でBグループの発表を終わります。

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日時 令和5年10月24日(火)

5校時 13:35~14:20

対象 日野市立滝合小学校

第5学年1組 35名

授業者 郷土教育推進委員会Bグループ

高橋 類子

研究主題「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

Bグループ研究テーマ「日野の魅力を知り、郷土を好きになるひのっ子の育成を目指して」

1 単元名

「日野の工業調べ隊！」(全15時間)

2 単元の目標

- ・自分たちが住む地域にある企業や工場について知り、誘致された経緯や理由を理解することができる。(知識・技能)
- ・地域にある企業や工場について、もっと知りたいことを考えることができる。また、情報の集収、整理や分析を行い、自分の考えや思いを伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・自分たちが住む地域にある企業や工場について興味をもち、郷土に対する愛着をもつことができる。(学びに向かう力・人間性)

3 指導観

(1) 単元観

本単元では、①教科横断的な学習、②協働的な学習、③郷土教育の推進の3つの視点で指導を工夫していく。

① 教科横断的な学習

児童は社会科の「米づくりがさかんな地域」や「水産業がさかんな地域」で、農業の現状や工夫について学習し、今後「自動車の生産」や「日本の工業生産と貿易・運輸」の学習を通して、我が国の工業における工夫や現状について理解を深めていく予定である。また国語の「対話の練習」では、自分の考えを伝えたり、相手の意見を受け止めて自分の意見を改めて考えたりする活動を行ってきた。自分の考えを持った上で相手に伝えることを、教科学習だけではなく、委員会活動やクラブ活動など、全教育活動で行うことができるように意識させていきたい。

② 協働的な学習

本単元では話し合い活動を多く取り入れ、意図的に友達と話す機会を設け、自分の考えや思いを伝える経験を積み重ねる。他者の考えを知ったり、違う視点から考えたりすることで、他者と協働しながら課題解決する力が身に付けられるようにしていく。

③ 郷土教育推進委員会の研究テーマに迫るための手立て

児童の多くは長い期間、日野市に住んでいるが、市内にある企業や工場に関心を向けている児童はあまり多くない。今回の単元を通して、日野市内になぜ多くの企業や工場が誘致されたのかを考え、自分たちが住む地域に誇りや愛着をもつことができるように指導をしていきたい。

また、調べ学習で学んだことを保護者や他学級の児童に知らせることを通して、日野市の魅力に気付かせていきたい。

(2) 児童観

本学級児童は、明るく素直な児童が多く、学習においても新しい学習活動に意欲的に取り組むことができる。第3学年の社会科では、日野市について学んでおり、地形について理解したり、自然が多いことや農業が盛んであることを学習したりしてきた。第5学年の社会科では、「自然条件と人々の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」や「水産業のさかんな地域」について学習し、自然条件に合わせた暮らし方や、米や水産業のさかんな地域ではどのように米づくりをしたり、水産物を運んだりしているのかを学んでいる。

今回の学習を通して、日野市にある企業や工場に興味をもち、課題に対して進んで調べ学習を行ったり、友達と意見を交流し、協働的に活動するよさを実感させたりしていきたい。

(3) 教材観

総合的な学習の時間において、「調べてみたい。」と思えるような課題を見つけることや、「友達の考えを聞きながら一緒に課題解決をしていきたい。」と思える題材を設定することがとても大切である。

そこで本単元は、社会科の学習と関連させ、意欲を高めた後により詳しく調べてみたいと思う企業や工場を多く挙げ、課題を設定する。課題ごとにグルーピングを行うとともに、グループ同士の発表を行うことで、協働的に学習する場が生まれ、異なる視点からの意見を出し合うことにつながり、友達の考えから新しい発見や気づきを得られ、自分の考えをさらに高めることにつながると考える。この単元を通して、他者の意見を聞くことによって自分の考えが深まる面白さに気づき、すすんで他者と関わろうとする力を身に付けさせたい。

また、総合的な学習の時間において調べ学習を進める中で、「調べたい情報、欲しい情報が出てこない」「分かりやすい資料が見つからない」「どの情報が正しいのか分からない」などの困り感を抱く児童が多くいる。情報を集める際に、信憑性の高い情報をどこから探すのかや、インターネット検索や図書以外から情報を収集することができることを伝える必要性を理解させていく。

4 単元計画

(1) 評価規準

A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む態度
・日野市には、様々な企業や工場があることを理解している。	・自分の考えと友達の意見を比べながら聞き、より自分の考えを深めている。	・自他の考えのよさを生かし、問題の解決に向けて協力して取り組もうとしている。

A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む態度
・話し合いの目的を理解し、自分の考えを伝えようとしている。	・設定した課題を解決するために必要な情報を収集し、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。 ・日野市の企業や工場について考えたり調べたりしたことを、相手や目的に応じてよく分かるように発信している。	・様々な人との関わりの中で見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。 ・日野市にある企業や工場の調べ学習を通して、社会科で学んだことをさらに追求しようとしている。

(2) 単元の指導計画 全15時間扱い

時	学習活動・内容など	○教師の指導・支援 ◆評価規準 () 評価の方法
1 ・ 2	○課題把握 ・日野市内にある企業や工場について知る。	◆日野市内には多くの企業や工場があることを理解している。(ワークシート・発言)
3 ・ 4	○課題設定 ・調べてみたい企業や工場について課題を設定し、課題ごとにグルーピングを行い、グループごとに課題意識をもつ。	◆自分の考えと友達の意見を比べながら聞き、より自分の考えを深めている。(ワークシート・行動観察)
5 本時 ～ 11	○情報の収集、整理・分析 ・インターネットや本などの資料を活用したり、企業や工場の方から話を聞いたりして、情報を収集する。 ・収集した情報を、整理したり分析したりして、課題の解決方法を考える。	◆設定した課題を解決するために必要な情報を収集し、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。(ワークシート・発言) ◆自他の考えのよさを生かし、問題の解決に向けて協力して取り組もうとしている。(行動観察) ◆様々な人との関わりの中で見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。(ワークシート・行動観察)
12～ 15	○まとめ・表現 ・実践を通しての気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、表現する。	◆学習を振り返り、自分や友達のよさや成長に気付いている。(ワークシート・発言)

6 本時の指導（15時間扱いの5時間目）

（1）本時の目標

- ・グループごとに詳しく調べたい企業や工場について、調べ学習を進めることができる。

（2）展開

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	☆指導上の留意点 ■評価の観点
導入 10分	○前時の活動を振り返る。 グループごとに、調べ学習を進めよう。	
展開 30分	○グループごとに調べ学習を進める。 ○課題を解決していくために、どのような情報が必要かを考え、やるべきことを挙げていく。 ・〇〇について、もっと詳しい情報が欲しいね。 ・企業や工場の人に、直接話を聞いてみたいね。	○グループによって、進捗に差が生じるため、クラスで一律に進捗を揃えず、それぞれのペースで進められるようにする。 ○情報収集の方法は、インタビューやアンケートを行う、ゲストティーチャーから話を聞くなどの方法もあることを伝える。 ○自分の意見を話せない児童がいたら、教員が間に入り、つぶやきを拾う。 ◎自分の考えと友達の意見を比べながら聞き、より自分の考えを深めている。 (発言・行動観察)
まとめ 5分	○本時の活動を振り返る。 ・グループごとの進捗状況を学級全体で共有する。 ・次時に向けて、	

（3）板書計画

日野市の工業調べ隊！

めあて グループごとに調べ学習を進めよう。

富士電機グループ

日野自動車グループ

エプソングループ

雪印グループ

コニカミノルタグループ

銀座ウエストグループ

（4）授業観察の視点

- ・郷土への愛着を高めるために、適切な教材であったか。
- ・社会科で学習した内容と関連させることで、日野の魅力を知り、郷土を好きになる教材であったか。

『田原市の工業園へようこそ！』



5年 組 番 名前()

『日野市の工業調べ隊！』

5年 組 名前()

今日の学習で感じたこと、印象に残ったこと、気になったことなど

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

調べてみたい日野市内の企業や工場①

.....

.....

調べてみたい理由

.....

.....

調べてみたい日野市内の企業や工場②

.....

.....

調べてみたい理由

.....

.....

『日野市の工業調べ隊！』

5年 組 名前()

調べる企業や工場
きぎょう

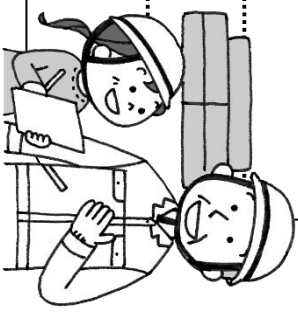
調べてみたいことや内容

(例：いつ日野市に工場ができたのか、なぜ日野市に誘致されたのか、どのような製品を作っているのか、製品をどこへ運んでいるのか、など)



どのようにして情報を集めるか。

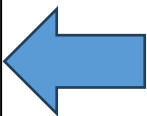
(例：本、インターネット、企業や工場の方に話を聞くなど)



『日野市の工業調べ隊！』

きぎょう
調べる企業や工場

今日、どのように進めるか、どこまで進めたいかをグループごとに決めよう。



今日のふい返し
☆ 予定通りに進んだか、次の調べ学習でやりたいことなどを
書こう

調べて分かったことなど

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

プレゼンテーション資料①

日野市の工業調べ隊！



1

明治時代～

<日本の輸出品>

生糸（きいと）

2

生糸とは

蚕（かいこ）の繭（まゆ）
からとった糸。



3



4

そのころ日野駅の近くには・・・

きゅうのうりんしょうさんししけんじょうひのそうえん
旧農林省蚕糸試験場日野桑園

①蚕の優良品種に育成

②桑の苗木育成



5

ちなみに、

旧農林省蚕糸試験場日野桑園は、
1980年に茨城県つくば市に移転。

現在は、一部の建物が修復され
残されており、**日野市初の国の
登録有形文化財**に指定された。



6

生糸の生産で もうかっていた日野市

しかし・・・

7



8

昭和恐慌（しょうわきょうこう）

米や生糸の値段が下がる。



9

不景気の波は日本にまでおし寄せ、
外国に生糸が売れなくなる。



生糸の生産に力を入れていた日野の
財政や人々の生活は**大ピンチ！！**

10

プレゼンテーション資料②

そこで・・・

昭和恐慌から日野市を
立ち直らせるために
工場を誘致（ゆうち）した！

日野五社

①富士電機



11

②六桜社 → 今の「コニカミノルタ」



12

③吉田時計店 → 今の「セイコーエプソン」



13

④日野重工業 → 今の「日野自動車」



14

⑤神戸製鋼所 東京研究所
(神鋼電機 東京工場)



移転して「シンフォニアテクノロジー」



15

今はないけれど、
他にもこんな企業が
あったよ！

17

18

日本ミルクコミュニティ（雪印乳業）



19

東芝（電話機を作っていたよ！）



20

プレゼンテーション資料③



21



22

その後 昭和30年代～ 旭が丘地区への工業誘致

平山台工業団地

東芝、帝人、ファナック、トッパン、
GEヘルスケアジャパン、HPなど
日本を代表する大手企業の工場を
続々と誘致

23

銀座 ウエスト（洋菓子のお店）



24

どんな工場があるかな？
日野市の工業調べ隊員に
なろう！！

25

3 Cグループの研究

令和5年度
Cグループ
日野の良さに気づき、語れるひのっ子を目指して

世話人 渡辺 大 (日野第四小学校)
佐藤恵美子 (潤徳小学校)
船引 颯太 (日野第八小学校)
高久 直 (夢が丘小学校)
谷村 建哉 (七生緑小学校)
谷 剛毅 (中央公民館)
顧問 吉野美智子 (元百草台小学校長)

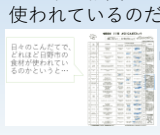
令和5年度 郷土教育推進委員会 研究主題
『郷土への愛着を高め、
地域と共に生きようとするひのっ子の育成』

Cグループ研究テーマ
「日野の良さに気づき、
語れるひのっ子を目指して」

 **学校給食**

【個別実践】小5 総合的な学習の時間
「四小の給食自慢をつくろう」
日野第四小学校 渡辺 大

日野市の給食には、なぜたくさんの日野市産の食材が使われているのだろう。

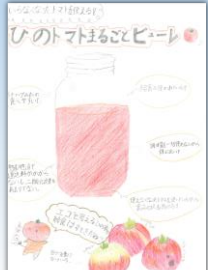


給食自慢を作り、日野市の給食の良さを広めよう。

Cグループでは、今年度の研究主題を受け、郷土への愛着を高めるためには、日野市の良さを知り、それを語れるようになるレベルになる必要があると考えました。そこで、研究テーマを「日野の良さに気づき、語れるひのっ子を目指して」とし、児童が良さを語れる授業づくりに挑戦しました。児童の立場で考えやすい教材として、日野市の特色ある学校給食に着目し、どの地区でも行えるような授業をそれぞれの学校で考え実践を行いました。

四小では、日々の献立表を用いた、日野市産の食材がどれくらい使われているかを確認める資料から、児童に「日野市の給食には、なぜたくさんの日野市産の食材が使われているのだろう」という問いをもたせ調べる活動を行いました。日野市の農家の思いや、地産地消のメリットなどを知り、自分なりの日野市の給食の良さを表現しました。そして、グループでまとめ、良さを広める活動につなげました。

日野市給食
日野市の給食のよさは？
日野市は、
おいしい給食が
たくさんあります。
日野市の給食は、
おいしいです。
日野市の給食は、
おいしいです。
日野市の給食は、
おいしいです。



ポスターやスライドにまとめ、校内や校門に貼ったり、学校のHP（ホームページ）に掲載したりして、児童が考えた方法で広めることができました。

【個別実践】小3 総合的な学習の時間
「日野市の食べ物博士になろう」
潤徳小学校 佐藤 恵美子



地産地消

☆とれたてだからおいしい！
☆えいようがたっぷり！
☆作っている人が分かる！
☆運ぶためのねんりょうがすくない！

潤徳小では、栄養士の先生に事前に児童の質問を渡し、それに合わせて給食のお話をしてもらいました。おいしい給食の理由とともに、調理師への感謝の気持ちを改めて感じ、当日の食器にはご飯粒一つ残っていませんでした。その後、各自が興味のある野菜のグループを作り、分担して調べたことを絵本、紙芝居にしたり、クイズを作ったりして、発表会を開きました。その結果、家庭でも日野市産の食材を食べたいという児童の様子が見られました。

【個別実践】小3 総合的な学習の時間
「八小の給食の良さをしようかいしよう」
日野第八小学校 船引 颯太



農家の思いや工夫
社会科見学「ネイバーズファーム」

SDG s の視点
トマトピューレ

地産野菜を使用した給食

関連付けて考え、給食の良さを紹介する → 日野市、地域への
関心・愛着

八小では3年生社会科の「日野市の農家の仕事」と関連付けて、日野市の給食の良さについて考え、紹介をしました。農家の話や、日野産の野菜が使われた給食の良さ、トマトピューレの取り組みを関連付けて考え、自分の学校の給食の良さに気付くことができました。子供たちは、誰に、どのように紹介するのかを考え、主体的に取り組むことで、地域に対する思いを深めていました。

【個別実践】小5 社会科「これからの食料生産
～未来へのさまざまな取り組み～」
夢が丘小学校 高久 直



国内の食料生産の課題を解決するための取り組みに着目して、国内の食料生産の発展のために様々な立場からの協力が大切だと捉える。

夢が丘小では、国内の食料生産が向き合う課題について、具体的な取り組みを調べる場面での教材として活用しました。日野市の取り組みを資料として提示することで児童がより身近なもの、自分事として考えられるようにすることをねらいました。生産者を含め、日野市の様々な立場の人が「食べ物を大切にしてもらいたい」「おいしく食べてもらいたい」という思いのもと小学校に対して取り組んでいるということを感じさせることができました。

Cグループ実践
第3学年 総合(地域に学ぶ)

「日野市の学校給食
の良さを紹介しよう」

七生緑小学校 谷村 建哉

Cグループの授業実践について報告します。
3年生を対象とした総合の授業を行いました。

研究の経緯

Cグループ研究テーマ
「日野の良さにに気づき、語れるひのっ子を目指して」

↓

日野市の給食は美味しい！

地産地消やトマトピューレの活用＝日野の良さ

○児童にとって身近
○どの学区の小学校
でも実践できる！

Cグループの研究テーマについて、研究の経緯を具体的に説明します。
他地域から移ってきた場合、日野市の良さを実感することは容易かもしれません。しかし、日野市で育っているほとんどの児童は、日野市の良さに気付くことが難しいと考えました。そこで、そんな児童たちが気付いていない身近に感じる「良さ」を意識させることが重要であり、異なる学校の児童が共通して「良さ」として感じるものは何かを考えた結果、学校の給食に焦点を当てた授業づくりに取り組むことにしました。

授業に向けて
「良さ」を「語る」には

- ①自分が「良さ」を感じる
- ②主体的に「語る＝発信」気持ちをもつ

どのような学習活動が効果的なのかを考えました。

「良さを語る」ためには、児童一人一人が多様な「良さ」を感じると共に児童が主体的に魅力を発信したいと思えることが必要です。そこで、自校の給食について詳しく知り、ポスターやスライドで発表する活動を展開することにしました。次に、資料集めを行いました。毎月配られる献立表や、事前に行った社会科見学で学習したことを基にした資料や写真など、児童にとって身近な資料を精選しました。

①導入

実際の授業の様子です。

導入では10月の給食献立表を見て、ほぼ毎日の給食に日野市の農産物が使われていることを知りました。児童からは「思ったよりたくさんあった！」「どうしてこんなにあるの！？」という驚きの声が上がったので、児童の疑問を基に、「七生緑小学校の給食に日野市の農産物が多く使われているのはなぜだろう？」という学習問題を立てました。

②学校栄養士の話

児童はこれまで、学習したことを基に、日野市の農産物が学校給食に用いられる理由を予想しました。

その後は、学校給食に関係の深い栄養士からの手紙を読むことを通して、地場産野菜を使う理由を知りました。また、日野市内の栄養士が作成している「トマトピューレ」についても学習しました。割れたトマトや変色したトマトも加工次第では廃棄することなく美味しく食べられることに気付きました。

地域の農家(由木さん)の話

学校に直接農産物を運んでくれる農家についても学習しました。以前訪れた直売所で顔写真が載っていた柚木さんの農場が、学校から車で3分ほどの近所にあることを知った児童は驚きと共に感心していました。柚木農場からは多くの種類の野菜や鶏卵がほぼ毎日学校に運ばれてくることや「おいしいものをみんなに食べてほしい」という柚木さんの願いを知ることができました。

③まとめ 本時の学習をふりかえって



児童Aの意見

自分の家の近所の柚木農園で作られた農作物が、こんなにも学校給食に使われているなんて知らなかった。知っている人が作った野菜は安心して食べられる気がする。

児童Bの意見

日野市の農作物が日野市で使われることで、日野市の緑が守られたり、新鮮なものが食べられたりできるのは嬉しいと思った。

まとめでは、本時の学習を振り返り、感じたことや気付いたことについて自身の言葉でまとめました。友達の意見を聞き、考えを深めたり参考にしたりしていました。

本実践の成果と課題

成果

- ・ 班の全員が給食の実践
→どの地域でも実践可能
- ・ 「すごい！」という反応
→魅力が伝わりやすい資料

本実践の成果と課題です。

班の全員が学校給食を用いた授業を行うことで、どの授業でも実践可能な事例を残すことができました。また、様々な資料を提示したことで、「すごい！」という児童の反応を引き出すことができ、魅力が伝わりやすい資料はどの資料かを知ることができました。

本実践の成果と課題

課題

- ・ 伝えたい情報を資料
→どのくらいの量をどのように提示するか
- ・ 他の学年での展開の仕方が難しい

次に、課題です。学校給食についてのたくさんの情報から、伝えたい情報を資料として提示する際の量と方法を最適化する必要性を感じました。また、3年生は地域学習として社会科とつなげやすい特徴がありましたが、他学年では展開の仕方に工夫をしていく必要があることを実感しました。

以上でCグループの発表を終わります。

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和5年10月24日（火）第5校時

日野市立七生緑小学校第3学年2組30名

授業者

教諭 谷村 建哉

「日野の良さに気付き、語れるひのっ子を目指して」

1 単元名 地域に学ぼう「日野市の学校給食の良さを紹介しよう」

2 単元の目標

- ・ 日野市の学校給食には地場産の食材が多く使われていることの良さについて調べ、日野市の学校給食への取り組みや関わる人々の働きについての理解を深めることができる。（知識・技能）
- ・ 日野市の学校給食の良さを紹介するために、調べ・考え・感じたことをもとに、日野市の学校給食の良さを表現することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 学校生活をより豊かにしている日野市の学校給食の良さについて興味をもち、その良さを伝えようと取り組むことができる。（学びに向かう力、人間性）

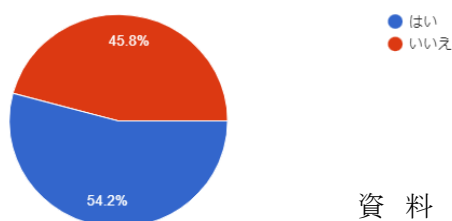
3 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
ア 知識及び技能	・ 日野市の学校給食には日野産の食材が多く使われており、その背景には地域の農家の思いがあることや、食品ロスを少なくするための取り組みがあることを理解している。（ア－①） ・ 日野市の学校給食の良さへの理解をとおして、地域の特色の良さを知ることができる。（ア－②）
イ 思考力、判断力、表現力	・ 日野市の学校給食に日野産の食材が多く使われていることから問いを見だし、日野市の学校給食の良さを探る課題を自らつくり、解決に向けて見通しをもっている。（イ－①） ・ 収集した多様な情報を分類・整理し、日野市の学校給食の良さを伝える相手、内容、方法について考えている。（イ－②）
ウ 学びに向かう力、人間性	・ 日野市の学校給食の良さを伝えるために、関わる人の取り組みや友達の考えを生かしながら、協働して課題の解決に向けて取り組もうとしている。（ウ－①） ・ 日野市の学校給食の良さを伝える学習活動を通して、日野市の学校給食の魅力に気付き、積極的に関わろうとしている。（ウ－②）

4 児童の実態

本学級の児童は、これまでの社会科の学習で日野の地理や農作物についての学習に意欲的に取り組んでいる。社会科見学では市役所の職員から日野市の農業について話を聞いたり、農園を見学したりすることで日野市について興味関心が高まっている児童が多い。一方で、「日野市について自慢できることはありますか？」という質問に対しては、半数近くの児童が「いいえ」と回答し、日野市について関心は高いが、良さや美点を具体的に伝えることが困難な児童が多数いることが分かった。（資料①）以上のことから、今回の学習を通して、栄養士や農家の方から実際にメッセージや思いを聞くことで児童にとって身近な学校給食について知見を深め、愛着をもてるようにしたい。その上でポスター作製をすることで学校給食や日野市の農作物や農家について校内に広める形で良さを語れるようにしたい。

日野市について、じまんでできることはありますか？



資料

5 単元について

日野市は自校方式の学校給食を基本としているため、学校給食室から漂ってくるにおいから学校給食を楽しみにしている児童が多い。児童は、栄養を考え、献立を考えてくださる栄養士の先生や、学校給食室で働いている調理員の方々と会う機会もあり、学校給食に携わっている方々を身近に感じている。そこで、学校で働いている方々の様子から「日野市」の野菜や果物に目を向けさせたい。また、社会の学習と並行して、日野市の農家の方々の思いや苦労についても感じ取らせたい。社会科では「日野市の土地の使われ方」を学習し、「店で働く人」で、スーパーマーケットの学習をしている。スーパーマーケットの学習では、いろいろな県から取り寄せられた旬の野菜とともに日野産の野菜や果物が置かれたコーナーがあることも調べている。しかし、学校給食に日野産がどれだけ使われているかを知る児童は少ないと思われる。自分たちが食べている学校給食の食材にも日野産が多く使われていることを知らせることで、児童は驚きとともに、「学校給食に日野市の野菜を使う良さは何だろう。」という疑問をもつと思われる。その良さが、おいしい学校給食につながっているのではないかという見通しのもと、予想を立てさせたい。

課題の解決に向けては、自分で情報を集めることが重要になるが、今回は栄養士の先生や農家の人の説明を聞くこととする。新鮮な食材をコストをかけずに購入できるという利点は想像がつくと思われる。そこで、食材を無駄にしない取り組みであるSDGsの観点についても取り上げていく。形の悪いトマトもむだにしない試みの一つである「トマトピューレ」の作成や、過去に野菜を食べなくなったことに対する対策や、畑を大切にできなかったことがあったことにも触れ、農家の方々の願いも考えさせたい。また、年々畑は減り、天候にも左右される農作物は、約束した提供量を出荷するためには大変な苦労もあることも考えさせていく。

学校給食で「ご馳走様」をするときに、食缶の中の残量が少しでも減るように、また、家でも日野産の野菜を積極的に取り入れてもらうなど、食の面からの郷土愛を深めてもらいたい。

6 指導について

本単元では、①「教科横断的な学習」、②「協働的な学習」、③「郷土教育」の3つの視点で指導を工夫していく。

①「教科横断的な学習」

これまで児童は、社会科の「日野市の農家の仕事」の学習を通して、日野市における農業の特色や、農家の人の思いや願い、そして日野産の野菜が学校給食に使われていることを学んできた。先月も、なし園の見学を行い「安全でおいしい農作物を食べてほしい。」という農家の思いを聞き、農作物を作っている方の思いや願いを深めてきたところである。本単元の指導にあたっては、社会科の学習で学んだことを思い出しながら、日野産の農作物と農家の方の思いや願いを、「日野市の学校給食の良さ」に結び付けて考えられるようにする。

また、国語科の「はじめてしまったことを知らせよう」の学習では、自分が知ったことを伝えるための文章の書き方に関して学んだ。「良さを語れるひのっ子」の育成のために、自分が知った学校給食の良さを文章だけでなく、様々な方法で分かりやすく伝えることができるように、学習で学んだことを生かしながら本単元のまとめを行う。

②「協働的な学習」

本単元では、「良さを語れるひのっ子」の育成のために、知った良さを表現する活動を行う。誰にどのように表現するかについては児童によって異なるが、似た目的をもった児童同士グループを作り、学校給食自慢を作成する。他者の意見を聞き、異なる視点から考えたり、意見を交流させたりする活動を通じて、他者と協働して取り組む力を育んでいく。話し合い活動は①にも関係する。国語科の言語活動の充実に繋げ、伝達したり、表現したりする力も同時に育むことを目指す。他者との関係性を意識させることでクラス運営にも生かしていく。

③「郷土教育推進委員会」の研究テーマに迫るための手立て

本単元は、「日野の良さに気付き、語れるひのっ子を目指して」という研究テーマに対して、日野市内のどの学校でも取り組めるように、「学校給食」に焦点をあてて計画した。

日野市の学校給食は全校が自校学校給食であり、地場産野菜の使用を促進している。また、形の悪いトマトを学校給食室で加工し、通年使用できるトマトピューレを作成するなど、全国に先駆けた取り組みも行っている。そんな日野市の学校給食の良さに児童たちに気付かせ、日野の良さの一つとしていきたい。

良さに気付いた児童が意欲をもって良さを広めることができるように「良さを語る」の幅を広げて取り組めるようにしたい。誰に、どのように「良さを語る」のかを考え、主体的に取り組ませることで、地域に対する思いをさらに深めることができると思う。

7 指導計画（4時間扱い）

	○主な学習活動と内容	・支援、留意点（評価）
【日野市の学校給食の良さを紹介しよう】 第一時	○既習事項を振り返る。 ・社会科見学や栄養士のお話を振り返り、日野市の農産物が学校給食に使用されていることを思い出す。 ○10月の予定献立表から、学校給食に使用されている日野市の農産物を見つける。 ○学校給食に多くの地場産の農産物の使用が全校に広がったことを知る。	・写真や掲示物を活用しながら、日野市の農産物が学校給食に使用されていることをおさえる。 ・既習事項から児童に農産物の使用数を予想させ、見通しをもたせてから活動に取り組ませる。 ・資料として「日野市の学校給食のあゆみ」を活用する。
【日野市の学校給食の良さを紹介しよう】 第二時「本時」	○学校給食で地場産の農産物を使う理由を予想する ○栄養士と農家の話を聞く。 ○学校給食に地場産の農産物多く使用されている良さを出させる。 ○発見した良さを発表・共有する。	・社会科見学等の学習を振り返り、児童に既習事項を想起させる。 ・身近な人物から、学校給食や農作物についての話や思いを聞くことで、親近感をもたせ、良さを考えさせる。
【日野市の学校給食の良さを紹介しよう】 第三～四時	○前時で発見した七生緑小学校学校給食の良さをみんなに伝える方法を考える。 ○「七生緑小学校学校給食自慢」をポスター等にまとめる。 ○作成したポスターを発表・共有する。	・以前に学習したポスターの作成を想起させる。 ・以前に作成したポスターを見せて、見る人にわかりやすく伝える作成方法の見通しをもたせる。 ・児童に、校内でポスターを貼りたい場所を募り活動を全校に共有する。

8 本時の指導（全4時間中第2時間目）

（１）本時のねらい 学校給食に多くの地場産野菜などが使われている理由を考え、日野市の学校給食の良さを知る。

（２）本時の展開

	学習活動 ・児童の反応	○指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
導入 5分	1 前時の活動を振り返り、本時の課題を知る。 ・学校給食には多くの地場産野菜などが使われている。 ・なぜ日野の野菜が使われているのだろう。 学校給食に日野市の食材が多く使われているのはどうしてだろう。	○前時の活動の記録を書画カメラ等で写し、活動の振り返りをスムーズに行えるようにする。
展開 30分	2 日野市の食材が使われている理由を考える。 ○自分なりの理由を考える。 ○農家や栄養士からのメッセージを聞き、思いについて考える。 ・メッセージを聞き、思いについて考え、分かったこと、感じたことをノートに書き留める。	○予想を立てることが困難な児童には、既習事項を想起するように個別に言葉掛けを行う。 ○農家や栄養士からのメッセージを聞き、日野市産の食材を使用している思いに気付けるようにする。
まとめ 10分	○学校給食に日野市の食材が使用されている理由についてまとめる。	○栄養士や農家の話を聞いて分かったことを児童の言葉でまとめさせると共に、黒板に板書して児童の考えを共有する。

（３）板書計画

学校の給食に日野市の食材が使われているのはどうしてだろう。				
予想	10月の献立	栄養士さんからの話	農家さんからの話	・理由 ① ② ③
	○安心して食べられる。 ○しんなり野菜が食べられる。			

（４）授業観察の視点

- ・学習活動は、郷土への愛着を高めるためのものとして適切であったか。
- ・本時の学習は、日野市の良さを語るひのっ子を目指す活動に繋がっていたか。

4 Dグループの研究

令和5年度
Dグループ

郷土を愛するひのっ子の育成を目指して
～指導事例集の効果的な活用による授業作り～

世話人	柿崎麻理子	(仲田小学校)
	岡村 大地	(日野第三小学校)
	小林 彩香	(日野第七小学校)
	小澤 正史	(東光寺小学校)
	秋田 克己	(日野第三小学校副校長)
顧問	川島 清美	(日野第三中学校長)

研究テーマについて

郷土を愛するひのっ子の育成を目指して
～指導事例集の効果的な活用による授業作り～

- ▶ 地域資源の教材化→郷土に対する愛情を高める
- ▶ 事例集アーカイブの活用を推進する

※現状・・・アーカイブを活用している実例が少ない

↓

<解決方法>

- ①リーフレット作成→日野市内の教職員に周知
- ②研究授業や個人研究で実際に用いて検証

リーフレットとは

日野市郷土教育17年分の指導事例集アーカイブの紹介

- ・ **今すぐ使える** 使用例 (幼稚園～中学校まで)
- ・ 検索方法
- ・ 検索キーワードの例 など

閲覧場所

- ・ 「みんなの実践共有掲示板」
- ・ 全校共有 (P:) → 23 郷土教育資料 → 郷土教育リーフレットPDF



Dグループでは研究テーマについては、自分たちが住む地域の資源を教材として扱うことで、児童が郷土をより身近なものとして捉え、興味関心を高め、郷土に対する愛情を高めることにつながると考えました。また、昨年度初めてデータベース化された「指導事例集アーカイブ」の活用促進について研究することを副題としました。アーカイブは、活用している実例が少ないという現状から、リーフレットを作成して、存在や使用方法を周知すること、事例集を実際に用いて検証することの2つを研究内容としました。

まず、リーフレットについてです。

日野市でこれまで17年にわたって研究されてきた郷土教育の指導事例集が、昨年度初めてデータベース化されました。指導事例集アーカイブは、とても便利なサポートツールです。身近な地域を教材化しているので、日野という地域についてもっと知りたいときに有効です。また、指導案も多数掲載されているので、地域を生かした各教科等の授業を一から作るのに困っているとき、すぐ使うことができます。

共有ドライブに保存してある事例集の検索方法や、検索キーワード例に加え、幼稚園から中学校までの活用例を載せて、リーフレットを作成しました。ぜひ各学校で、「閲覧場所」から印刷するなど周知していただき、指導事例集の活用促進にご協力ください。

指導事例集活用 研究授業について
第3学年 総合的な学習の時間「地いきのことを知ろう」
 地域に残る古いものが、どう受け継がれてきたのかについて考えた。
 成果①児童が祖父母や図書館などと主体的に学ぶ姿が見られた。
 成果②地域のリソースを簡単に得られ、児童の関心を引き出した。
リーフレット 平成19年度の調査票「2007(3)3年総合学区域探検(東光寺)」より
「学習から得た史実や地域の実態」
 日野宮神社は伝承を元に人々の防災への願いを集めた心の拠り所
 四谷の系譜に隣り合う方が今も地域に多くおり、とても協力的だった。
「リーフレット活用の利点」
 本時案と指導経過を知ることができ、児童の印象に残る「ウナギ」
 があると事前に把握できた。参照できる資料収集の見当を付けられた。



次に、指導事例集アーカイブを活用した実践を紹介し
 ます。

研究授業は、東光寺小学校第3学年 総合的な学習の
 時間「地域のことを知ろう」という単元で行いまし
 た。参考資料は、指導事例集「2007(3)3年総合
 学区域探検(東光寺)」です。アーカイブで「東光
 寺」「3年」「社会」「総合」をキーワード検索し
 て、資料や指導案を簡単に探すことができました。
 具体的な取り組み内容としては、地域に古くから残る
 ものについて考え、自分たちの一番興味のある日野宮
 神社を訪問し、氏子会会長の天野さんに神社のことや
 地域に残る伝承を伺いました。インタビューの経験を
 もとに調べ学習を行い、調べた内容を学習者用端末で
 スライドにまとめました。3学期には、地域の方や日
 野市立図書館の方の話、学校作成の地域の資料を活用
 し、自分たちの地域のよさについて発見したことを、
 感謝の会として地域に向けて発表します。

研究授業を通して、授業作りの過程で単元計画を参考
 にすることができ、学習を進める見通しをもつことが
 できました。事例集には児童の興味関心を引く資料が
 まとまっており、児童の予想できる反応を踏まえた情
 報の提示の仕方や、弾力的な学習の進め方を考えるの
 に役立ちました。参考にしたのが古い実践であったた
 め、現在の年間計画とのすり合わせが課題となりました
 が、大筋で引用でき、異動してすぐの授業者として
 は、地域のことを把握するのに便利でした。

個人研究①授業者 岡村大地(日野三小)
第3学年 総合的な学習の時間
 「梨博士になろう」
 「東光寺大根博士になろう」
 「ふるさと安全隊になろう」

参考資料 「2010(6)3年総合 日野の梨について調べたことを発表しよう」
 「2009(5)3年総合 東光寺大根について調べたことを発表しよう」
 「2012(8)学年指定なし 防災教育と郷土資料」
検索方法 「梨」「東光寺大根」「防災」
使用した意図 梨と大根の栽培見学活動をもとに探究課題を設定する
 学習計画作りや3学期に行う防災教育の授業計画の参考資料とした。

個人の実践についても紹介します。

日野第三小学校の、第3学年総合的な学習の時間では、
 梨と大根の栽培見学活動をもとに探究課題を設定
 する学習計画作りや、3学期に行う防災教育の授業計
 画の参考資料として事例集を活用しました。

個人研究② 授業者 柿崎麻理子(仲田小)
第4学年 総合的な学習の時間
 「多摩川とともに生きる」

参考資料 「2007(3)4年総合「多摩川を渡ろう」」
検索方法 「多摩川」
使用した意図 多摩川探索活動をもとに探究課題を設定する学習計画
 作りや、児童が情報収集の際に用いる資料として活用した。

仲田小学校の、第4学年総合的な学習の時間では、多
 摩川探索活動をもとに探究課題を設定する学習計画作
 りや、児童が情報収集の際に用いる資料として事例集
 を活用しました。

個人研究③授業者 小林彩香(日野七小)

第4学年 社会科

「東京都の発展に尽くした人々」

参考資料 2016(12)4年社会
「水のきれいな町ー玉川上水の学習を生かしてー」
「4年」「社会」「玉川上水」

検索方法 玉川上水の学習と地域の関連や身近な地域の日野用水を取り上げ、学習意欲や興味関心を引き付ける資料、指導案を活用した。

使用した原因



日野第七小学校の第4学年社会科では、事例集から玉川上水についての学習と地域を結び付けるという指導案のアイデアを参考にし、身近な地域の日野用水を取り上げて、学習意欲や興味関心を引き付ける資料を活用しました。

<検証結果>

【メリット】
すでに出来上がっている指導案や資料を使える。
↓
質及び効率面で効果的な教材研究、資料提示が可能

【留意点】
▶指導案や提示資料を加筆修正する必要がある。

事例集を活用した検証結果です。メリットは、質及び効率面で効果的な教材研究、資料提示ができることです。すでに地域を研究し、教材化しているので、日野市に特化した地域資源を授業に有効活用することができました。児童が意欲的に取り組んだり、他地域と日野の事例を比較して、より理解を深めたりすることができました。留意点は、資料の加筆訂正です。過去の資料を用いるため、現在の学校や児童の実態に合ったものに作り変えていくとよい、と分かりました。

成果

①指導事例集の活用を推進するため、リーフレットを作成することができた。

②指導事例集を活用した授業実践による検証

成果と課題についてお話しします。成果の1つ目は、リーフレットを作成したことです。C4 t h掲示板を活用して、日野市の教職員に向け広く周知することができました。2つ目は、指導事例集を授業作りに生かしたことです。これまでの郷土教育推進研究では、新たな教材開発や授業作りに重点が置かれていましたが、蓄積を実践に生かして検証できたことは、これからの研究における成果となりました。

課題

①指導事例集の更なる活用促進

②指導事例集の蓄積方法について検討

課題の1つ目は、指導事例集の更なる活用促進です。検索方法をより一層分かりやすく簡単にする、毎年日野市に転入する教員にリーフレットを配付する、など、手立てを講じていくことが必要だと考えます。2つ目は、指導案だけでなく、提示資料やワークシートなど、教材を充実させ、指導事例集の蓄積の仕方を考えていくと、さらに使いやすい事例集になると考えます。

以上で、Dグループの発表を終わります。

「身近な地域」を教材にしてみませんか

～日野市の郷土教育17年分のデータが活用できます～

日野市立教育センター 郷土教育推進研究委員会

『郷土を愛する「ひのっ子」を育てるために』

郷土日野 指導事例集

地域の特色を知りたい

郷土教育の先行事例を知りたい

日野の昔話や、活躍した人物を知りたい

総合的な学習の時間の指導案を探したい



そんな時は「**指導事例集アーカイブ**」を活用しましょう！

豊富なデータや指導案を生かすことができます。

今すぐ使える使用例や検索方法が載っています。

(※登録やダウンロードの必要もありません)



郷土教育推進研究委員会では、日野市の「自然や文化、産業」をテーマにした教材、指導案を毎年作っています。この度、事例集をドライブ上で検索できるアーカイブを作りました。国語科（読書活動）、社会科、道徳科、総合的な学習の時間など、様々な授業でぜひ活用してください。

様々な校種（幼稚園、小学校、中学校）の活用事例や、検索方法を紹介しています。

幼稚園の場合(年長児)

子供たちが、昔話が好きになってきた。

せっかくだから地域の昔話も読んであげたい

けれども、どんな話があるのかな・・・？



そんな時は！ 「キーワード: **幼稚園**」「**昔話**」で検索！」

昔話がたくさんあ
ったし、資料を活用
した指導案もあ
る！一石二鳥！！



(2) 自分の住んでいる地域にまつわる昔話に関心をもつ
～四谷のうなぎの話をうちの人に語り継ごう～

(幼稚園 年長児)

1. 教材化の意図

第三幼稚園周辺には、日野駅や甲州街道があり、古くから日野の中心として栄えた地域である。通園してくる子供達は核家族が大半であり、この地域にまつわる伝統行事を知らない子供も多い。そこで、地域にまつわる昔話を聞き、実際の場所を訪れて昔話をより身近に感じさせたいと考えた。さらに聞いた話を身近な人に伝える楽しさを味わわせていきたいと考え、教材化することにした。

クラスの実態として、絵本など視覚的要素のある読み聞かせでは興味をもって楽しんでいるが、言葉聞き取る力や話す力には個人差があるので、地域の方から直接素話を聞くことで内容への興味や理解がどのような状況になるのか把握し、イメージを膨らませる時間を充分にとりながら大型紙芝居という表現方法で進めていくこととした。

小学生の場合(3年生)

毎年、総合的な学習の時間でお
世話になった方との日程調整が
つかず実施できなくなった。



そんな時は！ 「キーワード: **3年**」「**総合**」で検索！」

(5) 七小学区域の特色をしらべよう！

(第3学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

本校は、JR日野駅から南(八王子方面)へ線路沿いに徒歩で10分、日野台地にある。本校の周囲は、急速に住宅が増え、緑は少なくなりつつある。しかし、屋上に上がると、南から西にかけて日野消防署、中央公園、実践女子大学、北から東にかけては都営住宅、日野市役所、市民会館、新選組のふるさと歴史館等が見られる。市の主な施設が集まっており、大学や高等学校も近い距離にある文教地域でもある。こうした大きな施設が集まっているのは、この地域に広い土地があったためである。この地域は、畑や原野を切り開いて造成された新興住宅地で、都営住宅・分譲住宅も多い。

これまで、社会科の学習で、七小の屋上からの風景を観察したり、学区の地域めぐりをしたりしてきた。さらに今回、総合的な学習の時間で、航空写真や地図を提示する中で、児童の中に地域に対する新たな関心や疑問が生まれ、児童の主体的な探究活動につながるのではないかと考えた。調べ学習を通して学んだことをまとめていく中で、自分たちの住んでいる地域の特色に気付かせたい。

以前実践された
指導案を生かせそう！
単元計画もばっちり！



小学生の場合(6年生)

歴史上の人物にはたくさんの人がいたけれども、日野市には活躍した人はいるのかな。



そんな時は！『キーワード:「日野」「歴史」で検索！』

6 ひらやま すえしげ たす 平山季重を訪ねる

■900年以上昔、源頼朝にその力を認められた武将がいた



平山小学校の「すえしげ広場」

源頼朝に認められた武将が日野市にいた！
500騎の敵に対して、15騎で挑んだすごい人がいたのかあ。鎌倉時代に書かれた日本の歴史書『吾妻鏡』にも出てくるなんて！これは、子供たちも興味をもつかもしいな！

中学生の場合

英語の教材文で、何か面白いものないかな。



そんな時は！『キーワード:「英語」「ふるさと」で検索！』

2. 具体例

具体例1：ふるさと教材の英語バージョン～中学校英語や総合学習における活用資料～

「勝五郎はなぜ“ほどくぼ小僧”と呼ばれるようになったか？」

勝五郎 うまれ変わ物語

死んだ人間が、また、生まれ変わるという不思議な話が日野の程久保に伝わっています。

A change story born in Katsugorou

A mysterious story that a dead human being is reborn is handed down in Hodokubo of Hino.



日野市にふるさと教材があるんだ！
ふむふむ……人が生まれ変わるという話か。
単語も文法も難しいものが少ないし、これは使えそう！

検索の方法 Googleドライブの共有ドライブを開く

Googleドライブ内に 検索性郷土教育指導事例集が PDFファイルで 保管されています。

検索の方法 キーワードを指定する

調べたいキーワードを 指定して検索する ことも可能です。

【キーワードの例】

- ☆学 年 (幼稚園、4年 など)
- ☆場 所 (地域、地名、学校名)
- ☆人 物 (異聖歌、新選組 など)
- ☆教科等
- ☆ジャンル (歴史、文化、農業、商業、産業、人、自然)

V 夏季研修会 （ふるさと文化財課と連携）

1 日野宿のフィールドワークと教材化

（1） 教材の宝庫「日野宿」

日野宿(日野本郷、主に現在の日野本町周辺)には、歴史的景観が残り、歩いてみると、様々な歴史・民俗・産業・自然・人々と出会い感動がある。令和5年(2023)度は、日野市制 60 周年、日野第一小学校開校 150 周年、日野市立中央図書館(豊田)50 周年、新選組結成 160 年、戊辰戦争開戦 155 年の節目の年にあたる。この年に、日野宿のフィールドワークと教材化について学ぶことは、時機を得た研修会と考える。

戊辰戦争を経て幕末から明治にかけての時代は、新選組が朝敵となり、激動の日野宿であった。しかし、日野は困難を乗り越え、自由民権運動・文明開化の時代を迎える。

今年度のフィールドワークと教材化を学ぶ研修会では、日野の近代化・文明開化の象徴となった「養蚕」「日野煉瓦」「鉄道(交通)」「学校(教育)」さらに「日野人のチャレンジ精神」に視点をあてた。実物・本物に触れるフィールドワークを楽しみ、午後の座学では教材化の方法・授業構想の持ち方について学んだ。

（2） 昭和の地形図や市販の都市地図を読む

研修会は、子どもの授業をイメージして進めた。昭和 15 年の地形図を読み取るため、見学した場所に赤○をつけ、歩いたコースに赤線を引いた。比較検討するため、昭和40年の市販地図を併用した。さらに、地図記号を調べ、水田・桑畑等に色を塗ってみる。すると、地域の風景や地形の様子が見えてくる。そこで、地図を読み取り、「わかったこと」「思ったこと」「疑問」を出し合い、発言を整理していくと学習課題(問題)が設定できる。これを整理すると「学習計画(指導計画)」ができあがる。地図の読み取りをさらに深めるためには、新旧の地図を比較したり、イラストマップや古写真を活用するとよい。研修会では、今尾恵介氏作成の「日野宿イラストマップ」や日野宿の各所に掲示されている古写真「まちかど写真館 in ひの」を活用した。両者とも日野宿発見隊の事業で作成・設置された。

（3） 日野の近代化・文明開化の授業を構想する

① 中央線多摩川鉄橋と農林省蚕糸試験場を世界遺産に！

子どもが、興味・関心をもって意欲を持続させ追究できる課題に「日野煉瓦」と「養蚕」がある。日野の地元で煉瓦を生産することにより鉄橋ができ、明治 22 年(1889)、甲武鉄道が多摩川を越えることができた。養蚕・生糸は、桑から蚕までオール国産で、外貨獲得の筆頭品目であった。あらゆる日本の近代化・文明開化を支えた。

中央線多摩川鉄橋(上り線)は「日野煉瓦」の橋脚で、明治 22 年の甲武鉄道開通から、現在まで、戦争や地震にも耐え、現役として使われ続けている。また、仲田の森蚕糸公園にある「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」は、平成29年(2017)、日野市初の国登録有形文化財となり、保存修理後公開も始まった。この二つの文化財を「世界遺産に！」と、思いや願いをもって、歴史や価値を調べ、市民に訴えていく授業(総合的な学習の時間)を構想してみた。世界遺産登録の道が開けるかもしれないという夢と期待をもって取り組みたい。世界遺産は関連した文化財と遺産群として登録される。最近、明治 5 年(1872)に新橋横浜間に開通した鉄道跡「高輪築堤」が、当時のまま発見された。築堤にはお台場の石垣が使われ、海上の築堤を蒸気機関車が走る。鉄道遺産群として「中央線多摩川鉄橋と高輪築堤を世界遺産に！」という追究課題が設定できる。

日野桑園第一蚕室は、研究施設として昭和 7 年(1932)に竣工したが、桑と蚕の研究所として昭和 55 年(1980)に茨城県筑波研究学園都市に移転するまで、国の最先端の研究を担ってきた。明治 5 年(1872)に開業した富岡製糸場が絹産業遺産群として世界遺産に登録されたが、日野の蚕糸試験場跡と第一蚕室をこの絹産業遺産群に組み込みたいという思いや願いを子供にもたせたい。社会科・総合的な学習の時間を活用し、6 年生・中学生に「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室を世界遺産群に！」の課題で追究・発表したい。市民が動き、国が動けば、世界遺産も夢ではない。

① 日野の交通の歴史

江戸時代の五街道の一つ甲州街道(甲州道中)は、江戸から信濃の国諏訪までをつなぐ幹線道路だった。多摩川は橋が架けられず、渡し舟によって通行した。「日野の渡し」は、大正 15 年(1926)の日野橋開通まで使われた。大名行列はどうしたのか、明治時代の乗合馬車や日野橋開通前に開業した乗合バスはどうしたのか、台風の時は等、子どもが驚き興味をもつエピソード満載の「日野の渡し」である。

現日野駅舎は、昭和 12 年(1937)、複線化に伴い現在の位置に移転開業した。日野の農家をイメージした貴重な木造駅舎で、丸太の柱がそのまま使われている。交通の歴史、小学 3 年生の「日野市、くらしのうつりかわり」の好教材である。

② 日野の教育発祥の地

日野図書館の北、児童館・中央公民館は、元普門寺の境内で、日野の教育発祥の地である。明治 6 年(1873)に普門寺の本堂を借りて日野学校(日野第一小学校の前身)が開校した。また、終戦後の昭和 22 年(1947)に日野中学校(日野第一中学校の前身)が、新学制による中学校として、日野小学校校舎内に開校した。日野図書館前に日野小学校正門の礎石が保存されている。中央公民館前には学校敷地内にあった「二色イチョウ」が残っている。ここに明治 10 年(1877)に西洋式 2 階建て新校舎が完成した。この西洋式校舎は、日野の文明開化の象徴であった。建設費用は、ほとんどが地域の寄付金で賄われ、日野学校は地域の誇りであった。当時の地域の学校に寄せる期待や思いの強さは、現在の学校に寄せる思いへとつながっているのではないだろうか。

戦前、日野五社とよばれる大工場が誘致された。昭和 18 年(1943)、日野国民学校(昭和 16 年から 21 年までの小学校の名称)の児童数は 1800 人を越え、移転を余儀なくされた。昭和 22 年、日野小学校は、現在地の新校舎に移転した。日野第一中学校は、昭和 37 年(1962)に現在地に移転した。現在地の運動場は、昭和 30 年(1955)に、PTA 全員と立川基地のアメリカ兵が協力して整地作業を行った。学校の歴史を学ぶことは、地域の歴史を学ぶことであり、愛校心・郷土愛の育成につながる。

(2) 地域を訪ね、人と出会い、資料収集し、教材化を図る ～新発見資料から～

① 武蔵御嶽神社「オオカミのお札」

令和 5 年は、武蔵御嶽神社の 12 年に一度の大日真神式年祭の年であった。御嶽神社の御師は、江戸時代から関東一円に火難除・盗難除等の「オオカミのお札」を配って回っている。日野市には江戸時代から現在に至るまで、1 月 15 日に同じ家を、同じ順番・同じコースで回っている。その他に稲穂と桑葉を持った五穀豊穡の女神のお札がある。また、1 月 3 日の朝に鹿の肩甲骨を焼いて、骨に入ったヒビから農作物の吉凶を占う太占祭がある。25 種の農作物を占い、その結果をお札に刷る。その中に早稲、小麦、大豆等とともに、昆虫の「かひこ(蚕)」と「くは(桑)」が入っている。江戸時代から占い続けていることから、養蚕がいかに重要な産業であったかわかる。

② 国民学校教科書「初等音楽 二」に、唱歌「蠶(蚕)」があった

昭和 16 年(1941)、戦時体制に即応し、皇国民の錬成のため、小学校が国民学校へ改められた。

戦後、昭和 22 年(1947)、再び小学校となった。昭和 21 年発行の国民学校教科書「文部省 初等科音楽二」に唱歌「蠶(蚕)」が掲載されている。夏季研修会の前に、国民学校で歌った経験者を探したが、出会えなかった。研修会当日、楽譜を見て幼稚園の先生がピアノを弾いてくれた。後日、別の研究会でも提案したところ、参会者がスマホで検索し、「蠶」の曲を流してくれた。若い先生方の力、コンピュータの力に改めて感心させられた。この曲の歌詞から、養蚕の掃立てから上簇・繭になるまでの工程がわかり、養蚕の授業の導入に使える好教材となると考える。

① 乗合馬車会社「八王子軒」の八王子・四ツ谷間の切符

明治 22 年(1889)、甲武鉄道が開通した。今まで、江戸時代が終わって、甲武鉄道開通までの交通の歴史は空白の期間であった。恩師から乗合馬車会社「八王子軒」の八王子・四ツ谷間の切符をいただいた。明治 12 年(1879)、甲州街道を通る「乗合馬車」が開通した。江戸時代の宿場が立場(馬車の発着所)となり、日野の渡しの料金表にも馬車が明記されている。他社「田島軒」の時刻表を見ると、八王子・鎌倉河岸間は、一日 6 往復で所要時間は 4 時間半である。立場の場所は調査中であるが、日野宿本陣前と考えている。乗合馬車は、日野の授業で取り上げたことはなく、教材化は今後の課題である。前述の高輪築堤を通る汽車は、文明開化の象徴として、明治の浮世絵師により多数描かれている。浮世絵の中に「乗合馬車」「人力車」が描かれ、6 年生の社会科教科書にも掲載されている。

② 猪鼻輪業の屋号「要塞屋」と陸軍飛行機のプロペラ

日野宿本陣隣の猪鼻洋助氏宅は、令和 3 年(2021)12 月まで自転車店であった。閉店後も「要塞屋」の屋号が掲示されている。これは、明治 37 年(1904)、洋助氏の祖父が日露戦争出征時に、旅順のロシア要塞 203 高地を陥落させたことに由来する。日露戦争は「蚕(生糸)」で勝った！」と言われるほど、養蚕業は明治政府の「富国強兵」「殖産興業」政策の実現に貢献した。屋号復活は、日野宿発見隊の事業である。

猪鼻洋助氏宅には、本陣に墜落した陸軍機のプロペラも保管されている。大正 15 年(1926)2 月 11 日、立川基地を飛び立った陸軍機が、本陣ケヤキの大木に接触し墜落した。庭で遊んでいた 3 歳の女兒が亡くなった。破損したプロペラに、以上のことが墨書されている。猪鼻輪業を調べることで、戦争の歴史が見えてくる。猪鼻洋助氏は、自転車屋を営業しながら、郵便局の電報配達を請け負っていた。聞き取り調査から、東大助(旭ヶ丘)の巽聖歌宅へも電報を配達していたことがわかった。

③ 日野一小初代校長「日野義順」と新選組副長「土方歳三」

日野宿を歩くと、日野義順、土方歳三の足跡が見つかる。二人は、天然理心流の剣士であり、戊辰戦争を戦った。日野義順は、江戸時代は八王子千人同心として徳川幕府に仕え、明治時代には、日野の教育、自由民権運動、政治、産業振興のリーダーとして活躍した。最後は、初代日野町長として日野の発展のために尽力した。土方歳三は、最後まで戊辰戦争を戦い抜き、明治 2 年(1869)、箱館で戦死した。二人の生き方を調べ、比較し、話し合う授業から、日野の近代化と当時の人の考え方・生き方を学ぶことができる。

(2) 夏季研修会のまとめ

日野宿には、日野市のシンボルが 3 つあり、この 3 か所をフィールドワークと座学で学ぶことにより、日野の歴史・課題を学ぶことができる。実物・本物・人々とふれあい感動を味わうと、この感動を子供達に伝えたいと思い、授業がしたくなる。地域の人々との出会いにより、情報収集ができ教材発掘ができる。子供を引きつける、よりよい授業が創造できる。地域は、教室・教材・先生・家族である。コロナ禍、地域へ出る自由を奪われたが、コロナ後は、積極的に地域へ出て、教材発掘し、郷土教育を推進することが課題である。
(郷土教育推進研究委員会委員・顧問 小杉博司)

2 童謡「たきび」の詩人 巽聖歌と日野

『赤い鳥』など昭和の児童文学会で活躍し、童謡「たきび」の作詩で有名な巽聖歌（1905～1973）は、昭和23年（1948）10月から昭和48年に亡くなるまで、現在の日野市旭が丘に住み、児童詩・綴方教育の指導者として活躍しました。聖歌の家の近所には、同じ文学者の田中冬二や伊藤整が住んでおり、交流をもっていました。

聖歌は生涯に70校以上の校歌を作詩したと言われていますが、日野市内では、日野第四小学校と七生中学校の校歌を作詩しています。

平成11年に旭が丘中央公園に「たきび詩碑」が建立され、平成18年からは毎年12月に「たきび祭」が行われています。平成22年1月23日からは、地元の人々の運動が実り、JR豊田駅の発車メロディが童謡「たきび」となり、平成29年1月30日には、日野市と巽聖歌の生まれ故郷紫波町（岩手県）が姉妹都市となりました。



巽聖歌が移り住んだ頃の旭が丘（昭和22年11月米軍撮影の空中写真を加工）。豊田駅の北側は人家もまばらで、戦前からある工場の他は一面に黒土の畑が広がっていました。



日野市郷土資料館 秦 哲子



旭が丘での巽聖歌一家（右端が聖歌、左端が洋画家で妻の野村千春）



野村千春が描いた、黒土の中の日野自動車株式会社本社・日野工場（昭和29年製作、諏訪市美術館所蔵、写真撮影：井上博司）

故郷を創出、「たきび祭」で地域づくり（写真撮影：井上博司）

高度経済成長の中で開発され、新たな住民が住むようになった旭が丘。旭が丘では、自分たちの故郷を作ろうと、以前から夏祭りや運動会が行われていたが、この地に童謡詩人巽聖歌が住んでいたことにちなみ、毎年12月に「たきび祭」を行うようになった。

前夜祭で飾られた灯籠は、旭が丘小学校の児童が、巽聖歌の詩を読んで感じたことを、絵や言葉にしたもの。

3 中央線多摩川鉄橋と日野煉瓦

ふるさと文化財課 高橋 秀之

1 日野煉瓦とは

列車が頻繁に行き交う中央線多摩川鉄橋。その上り線の橋脚や橋台は煉瓦でできている。この煉瓦は、中央線の前身である甲武鉄道の建設時に日野で生産されたもので、日野煉瓦と呼ばれており、多摩地域最古の煉瓦工場とされている。

明治 10 年代を過ぎると各地で鉄道の建設が盛んになり、多摩地域でも甲武鉄道が新宿～八王子間の鉄道建設を進め、明治 22 年(1889)4 月には新宿～立川間が開業した。この動きに先だって、明治 20 年 12 月、日野宿では土淵英(支配人)、河野清助(会計主任)、高木吉造(工業監督員)が日野煉瓦工場を新設し、翌年 1 月に多摩地域で初の本格的な煉瓦工場が操業を始めた。

2 日野煉瓦の歴史

煉瓦工場は多摩川鉄橋に近い日野宿の東端（甲州街道の新奥多摩街道入口交差点近くの高木齒科跡地周辺）に設けられ、原料の粘土は工場近くの藺沼という場所から採取、職人が木枠に粘土を入れて板で締め固めて作る「手抜成形」というもので、職人は日野の瓦職人が集められ、横浜から工場長が招かれた。

日野煉瓦を用いた多摩川と浅川の鉄橋は明治 22 年 7 月に完成し、翌月甲武鉄道の立川～八王子間が開業した。誘致活動が実って日野駅が開業したのは、それから半年後の翌年 1 月のことで、その年の 8 月、日野煉瓦工場は廃業した。2 年半という短い操業期間は、煉瓦工場設立の目的が鉄道建設にあったことを物語っている。

3 日野煉瓦が見られる場所

・多摩川本流橋梁

多摩川に架かる鉄橋で、明治 22 年完成。上り線の橋脚のほとんどは補修されて白く塗られましたが、中心部分は当時の煉瓦が使われたまま。ただし、下り線の橋脚にはのちに作られたもので、煉瓦は使用されていない。

・日野下水用オープンコルベルト、日野川橋梁

鉄道築堤下に日野用水を通すために造られた。上り線側には、「イギリス積」と呼ばれる形で組まれた当時の煉瓦構造物が見られる。

・山下堀アーチコルベルト

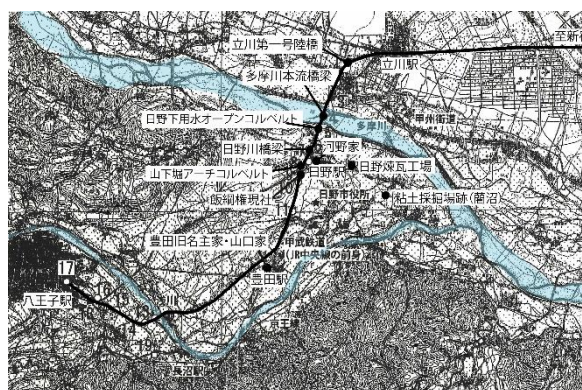
鉄道築堤下に用水を通すために造られた暗渠。全長約 21 m のレンガのトンネルが日野駅ホームの真下の築堤下に現存しており、通常は見ることはできないが、文化財案内看板に写真つきで紹介。

・日野一中ポケットパーク

日野煉瓦が、モニュメントとして触れる形で展示され日野煉瓦の紹介看板もある。また昭和初期に甲州街道沿いに敷かれた「歩道煉瓦」についても展示されている。

・日光橋（福生市）

日野市外であるが福生市の日光橋は、国内現存最古の道路煉瓦アーチ橋（1891 年）としても有名で、この橋にも日野煉瓦が使われている。



日野煉瓦製構造物群 旧甲武鉄道の位置

Ⅵ 1 課 2 館との連携

1課2館との連携

ふるさと文化財課 図書館 中央公民館

- 毎回の委員会にメンバーとして参加
- 授業づくりのための情報や資料提供
- 夏季研修会への協力




フィールドワークに参加して 委員会のグループの委員として

1 課 2 館との連携について御紹介します。1 課 2 館とは、ふるさと文化財課、図書館、中央公民館のことです。

毎回の委員会に委員として参加し、授業づくりのための情報及び資料を提供しました。夏季研修会では、ふるさと文化財課の学芸員が、事前に参考資料の提供やフィールドワークでの案内、午後の研修会にもグループ研究で助言を行いました。専門的視野の助言は、日野の歴史に対する教員の理解が深まり、「子供たちへの授業につなげたい。」との思いが高まりました。

ふるさと文化財課（郷土資料館・新選組のふるさと歴史館）と学校との連携

◆ふるさと文化財課では、資料館・新選組のふるさと歴史館の特色を生かして、小中学校と連携・協力を行っています。

◆郷土資料館企画展「ひのっ子学び展～地域を知る副読本と給食～」が開催され、好評を博しました。
日野産食材を活用したおいしい給食は、栄養補給のみならず、子どもと地域をつなぐ格好の教材でもありました。

ひのっ子学び展
～地域を知る副読本と給食～
7月15日（土）～10月1日（土）

日野市郷土資料館

ふるさと文化財課は、郷土資料館・新選組のふるさと歴史館の特色を生かした、小中学校教育との連携協力を行っています。

小学校では3年社会科見学や「昔の道具」出張授業、6年歴史学習、中学校では職場体験、地域学習、わかば教室での繭から糸を取る座繰り体験、千歯こき・足踏み脱穀機・唐箕などを使った平山陸稻（おかぼ）の脱穀体験を行い、学校からの依頼で収蔵資料の貸し出しなど、郷土教育の推進に努めてきました。

令和5年夏に開催した「ひのっ子学び展」では、＜地域を知るための教材＞として、市内の小中学校の学校副読本や、日野産食材を活用したメニューから地域を学ぶ数々の給食が紹介され、大好評でした。

夏季研修会では、保存修理された「旧農林省 蚕糸試験場 日野桑園 第一蚕室（国登録有形文化財）」を見学した。

中央線多摩川鉄橋 日野煉瓦造の橋台

日野煉瓦は、甲斐鉄道の建設工事に合わせて製造された煉瓦で、明治22年（1889）7月完成日野煉瓦にじかに触れることができます。




夏季研修会では、仲田小学校から多摩川沿いを歩き、日野宿を巡見して最後に旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室を見学して午後の研修となりました。

①中央線多摩川鉄橋の橋台：50万個の日野煉瓦が使用された多摩川鉄橋は、明治22年（1889）7月の完成以来135年間、中央線で都心に通う人々を支え続けてきました。現役の日野煉瓦にじかに触れることができる貴重な場所です。

②旧日野桑園第一蚕室：現在の仲田小学校から市民の森スポーツ公園にかけての一体には、日本の近代化を支えた桑と蚕の国の研究施設、旧農林省蚕糸試験場日野桑園があり、国の登録有形文化財の第一蚕室の他にも、公園内に残る建物基礎（部分）や樹木の並び方から、往時の威容をみてとることができる地域に残る歴史遺産です。

1 課 2 館の連携 平山陸稲栽培（ふるさと文化財課・中央公民館）

1 平山陸稲栽培



平山陸稲（おかぼ）は明治の終わりに、平山村の林丈太郎という篤農家が発見し、日本全国に広がった陸稲です。平山陸稲を郷土資料館の協力も得てわかば教室の子供たちが陸稲づくりに取り組みました。

子供たちが種籾から苗を作り、その際発芽条件を研究しました。6月にコンテナボックスに田植えをし、水やりや案山子作りなどを通して大切に育て、出てきた稲穂は、平山陸稲の特徴である、紫色の長い芒をもっていました。昨年より早く9月に稲刈りをし、11月に脱穀体験をしました。子供たちは進んで働き精米をして試食しました。子供たちは学習を振り返り、「お米の精米まで大変な過程を学び、良かった。農家さんの大変さを実感した。」「もちもちとした食感で少し甘い感じがしていた。」と初めての陸稲栽培体験や陸稲試食などの感想を書いていました。

【陸稲栽培暦】

作業、活動等	内 容	R5年度	備 考
種の選別	真水に浸けて沈んだ種を選ぶ	5月9日	
浸種	10～15℃の真水に浸ける	5月9日	
苗床準備	浅いコンテナボックスに極小赤玉土、水	5月10日	N8P8K8 肥料入
播種	苗床に均一にばらまく	5月10日	1週間程度で発芽
水やり	水が減ってきたらつぎ足す		汲み置き温めた水
田植え準備	深いコンテナボックスに黒土7分目、水	6月21日	肥料を混ぜて代掻き
田植え	苗2～3本を束にし、ボックスに25ヵ所	6月21日	鉛筆持ちで深植え
高温による水不足	猛暑による水枯れで葉先が白く枯れる	7月19日	水遣り、病虫害監視
追肥	コンテナボックスの土の上にばらまく	8月8日	8月16日に出穂
支え作り	稲が倒れぬよう四隅に支柱、横棒を渡す	9月5日	
網掛け	鳥害防止のため全体に網で覆う	9月5日	鳥の侵入防止の為
案山子の設置	わかば教室の子供たちが作り設置	9月13日	鳥の害防止の為
水切り	水やりを止め、米を熟成させる	9月22日	
稲架（はさ）の準備	干すための横棒、鳥よけのネット設置	10月上旬	水濡れ防止カバー
稲刈り	刈り取って束にし、稲架にかけ干す	9月27日	ノコギリ鎌
脱穀、籾摺り、精米	千歯こき、脱穀機、唐箕、籾摺り精米機で	11月1日	農具は郷土資料館
試食	家庭科室で炊飯して試食	12月5日	子供たちの感想



発芽条件を研究



田植えから2週間



全体を網掛けして鳥の害を防ぐ

1 課 2 館の連携 図書館

「巽聖歌」をテーマとした展示の実践

2 図書館の活動

多摩平図書館 飯田千尋

I はじめに

図書館では、毎月各図書館でテーマを決めて、本の展示と貸出を行っている。

今年は巽聖歌の没後 50 年にあたるため、市内数館で巽聖歌をテーマとした展示を開催した。

II 各図書館での展示紹介

1 中央図書館での展示 「童謡詩人 巽聖歌」

中央図書館では、巽聖歌関連の本を集め、2 階レファレンス室のカウンター前で展示・貸出をした。



2 多摩平図書館での展示 「多摩平図書館の近隣に住んでいた文学者」

多摩平図書館では、多摩平図書館の近隣に住み同時期に活躍した、巽聖歌・伊藤整・田中冬二の 3 人の文学者をテーマに本や郷土資料館作成の資料を集め、展示・貸出を行った。また、郷土資料館から、当時巽聖歌と伊藤整が住んでいた場所の当時の航空写真のコピーをお借りし、本とあわせて展示した。



3 市政図書室での展示 「日野市と紫波町の架け橋 詩人 巽聖歌の生涯」

市政図書室の展示では、巽聖歌の出身地である岩手県紫波町の図書館と連携した展示をおこなった。巽聖歌を紹介する展示を日野市と紫波町で同時開催し、それぞれの図書館で所蔵する資料を交換して展示した。

また、劣化が進んでいるため、普段はバックヤードで保管している著作も展示し、直接ご覧いただけるようにした。

（写真 2）多摩平図書館での展示

III 展示に対する反応

巽聖歌について関心がある方も多く、興味深そうに展示を見ている利用者の姿も見られた。

特に、市政図書室での展示については、地域のコミュニティ紙でも紹介され、巽聖歌が家族と旭が丘に住んでいた頃に見かけたことがある方が来館されるなど、多くの反響があった。また、近隣の小学校の先生も来館され、「地域学習として巽聖歌をテーマとしたい。展示資料は関心のあるものが多く、児童にもぜひ見せたい」との感想をいただいた。そのため市政図書室での展示期間終了後に展示資料を小学校に貸し出すことになり、学校での郷土教育活動にもつながった。



（写真 3）市政図書室での展示

VII 研究の成果と今後の課題

研究の成果と今後の課題

成果

- 身近な郷土教材を扱うことで、地域への関心や愛着を子供たちに育てる授業を開発工夫できた。
- 指導事例集のデータベースを活用することで、教材開発や指導案作成が効率よくでき更に授業の工夫改善ができた。
- 教材開発力等委員自身の学びが深まった。
- 1課2館の情報や助言が研究を深めることにつながった。

課題

- 郷土教育が目指す授業の更なる指導方法と指導計画の工夫改善のための研究をする。
- 社会、総合的な学習の時間、各教科で郷土教育に取り組めるように、郷土教材を開発作成する。
- 指導事例集のデータベースを更に活用する研究をする。

研究の成果と課題について述べます。

成果としては、「身近な郷土教材を扱うことで地域への関心や愛着を育てる授業を開発工夫できました。」また「指導事例集のデータベースを活用することで、教材開発や指導案が効率よくでき更に授業の工夫改善ができました。」「教材開発力等委員自身の学びが深まりました。」「1課2館の情報や助言が研究を深めることにつながりました。」

今後の課題としては、実践をさらに重ねていけるように「郷土教育が目指す授業に向けての更なる指導方法と指導計画のための研究をする。」「社会、総合的な学習の時間、各教科で郷土教育に取り組めるように、郷土教材を開発作成する。」「指導事例集のデータベースを更に活用する研究をする。」ことが挙げられます。

VIII 個人研究

所属（日野第六小学校）授業者（北川 のぞみ）（A）グループ

学年 5年	教科 総合的な学習の時間	単元名 ChangeFood
学習テーマ 食料問題	使用教材資料	なし
具体的な取り組み内容 身近な食料問題について考える学習の過程で、日野市の食について知るために、インターネットや資料を使って調べた。日野市の中でも工業や商業のイメージが強い多摩平地区で暮らしている子供たちにとって、農業は身近でないものであったが、日野市で様々な野菜が作られていることを知った。普段車から見ている日野の景色を思い出す様子が見られた。また、自分たちが食べている給食にも日野産野菜が使われていることを知ることができた。児童が「日野市でも農家が減少していると知って、日野産野菜がなくなるのは、悲しいから、残していきたいと思った。」と振り返った。 考察 ・日野市は、工業だけでなく農業も行われていることを理解し、日野産野菜を残していきたいという思いをもたせることはできた。今回は、やインターネットで調べたが、実際の農家さんに来てもらい、話を聞く方がより身近に感じられると思うので、今後検討する必要がある。		

所属（日野第五小学校）授業者（市川 敦也）（A）グループ

学年 4年	教科 社会	単元名 とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～
学習テーマ 郷土愛	使用教材資料	東京都副読本 「日野市の用水」
具体的な取り組み内容 ① 日野市のよさについて伝え合い、日野市には用水がたくさんあることを理解する。 ② 日野市の用水の概要を知り、学習課題を立てる。 ③ 日野市の歴史・使われ方・人々の関りについて関心があるものを調べ、まとめる。 ④ 学級で調べたことを伝え合う。 ⑤ 日野市の用水を保存維持するために、自分たちができることを考え出し合う。 ⑥ 調べたことと自分ができることをオクリンクにまとめる。 考察 ・日野市の魅力である用水が日野市の発展に貢献したことを理解できた。 ・日野市の用水の歴史を学ぶことで、先人の働きを理解し、発展につくした人々の思いを考えることができた。 ・多摩平地区ではなく、日野市全体の教材だったためあまり自分事として考えられなかった児童もいた。		

所属（日野第一小学校）授業者（白石 誠）（A）グループ

学年	3 年	教科	総合的な学習の時間	単元名	大すき！マイタウン日野
学習テーマ	日野の魅力の発見と発信		使用教材資料	「歩こう調べようふるさと七生」他	
【単元の構成】					
① 日野市のよいところを見つけよう					
② 地域の様々な人と交流しながら、日野市について考えよう					
③ 日野市のよさを未来につなげよう					
【具体的な取り組み内容】					
日野第一小学校の3学年では、総合的な学習の時間で、日野市の自然や歴史、産業、文化に関心をもち、郷土を愛する心情をもつことができるようにしていくことを目指して、日野の魅力について探究し、自分たちの学びを発信していく活動を行った。教科横断的に社会科の学習と結び付けながら地域を探検したり、「日野宿発見隊」・「郷土資料館」・「スポーツ推進委員会文化スポーツ課」など、様々な分野のゲストティーチャーの話を聞いたりして、日野にはたくさんの魅力があることを知った。その後、それぞれの興味関心に応じて自然・歴史・産業・文化の四つのグループに分かれて調べ学習を行った。インターネットや「歩こう調べようふるさと七生」などを活用しながら調べて分かったことを模造紙やスライドにまとめ、互いに発表し合うことで、日野の魅力について理解を深めた。さらに、3学期は、日野のために自分たちに何ができるかを話し合った。「日野のよさを伝えるためにポスターを作ろう」「かるたにして多くの人に日野のことを知ってもらおう」「日野用水をきれいにするために美化活動をしよう」など、自分たちにできることを考えることができた。					
【考察】					
学習を通して、児童は自分たちの暮らす地域にたくさんの魅力があることを知り、地域のよさを大事にしたいという思いをもつことができた。そして、地域のために自分たちにできることを考え、実行したことで、地域社会の一員としての自覚も芽生えたのではないと考える。					
地域のためにできることを話し合い、活動を充実させるために、2学期には話し合いを始めている必要があると感じ、学年で話し合っカリキュラムの見直しを行った。					

所属（滝合小学校）授業者（高橋 類子）（B）グループ

学年	5年	教科	総合	単元名	日野市の工業調べ隊！
学習テーマ		社会科で学んだ工業の学習を生かし、日野市にある企業や工場の歴史などについて調べ、発表をする。		使用教材資料 日野市の産業や工業についてまとめたスライド	
具体的な取り組み内容					
・日野市の産業や工業についてまとめたスライドを見て、企業誘致が行われた経緯を理解する。 ・調べたい企業や工場を決め、グループを作る。 ・郷土資料館で行われた企画展の資料や、インターネットを活用して調べ学習をする。 ・企業や工場ごとに分かったことや考えたことをスライドにまとめる。 ・他学級に発表をし、単元のまとめをする。					
考察					
・社会科で学んだことを生かし、意欲的に取り組むことができた。使用した資料が大人向けの文章表記だったため、今後、ふるさと文化財課や図書館などを協力し、児童向けの資料作成ができるとよい。					

所属（豊田小学校）授業者（磯村俊介）（B）グループ

学年 6年	教科 総合的な学習の時間	単元名 レッツスタートぼくたちわたしたちのまち豊田
学習テーマ 豊田の町をもっとよくしよう		使用教材資料
具体的な取り組み内容 豊田の町のよさや課題を見つめ、よりよくしていくために何が必要か、何をしていきたいかを考える。学年でグループ編成を行い、班ごとに活動内容を決定する。今回の取り組みでは、「ごみ拾い」「地域の人へのインタビュー」「商店からの協力を得て、アンケート調査を行う」「幼稚園との交流」「環境保全のためのポスター作製」などを行った。校外での活動を2回実施することで、課題を発見したり活動内容を修正したりすることができた。 考察 児童の思いを広げたり、地域の人々の思いに触れたりするために、地域の人材をより効果的に活用できるとよかった。		

所属（平山小学校）授業者（廣谷 陽子）（B）グループ

学年 3年	教科 総合的な学習の時間	単元名 日野のいいところみつめ隊
学習テーマ 郷土の良さを知り、大切にしようとする心を育てる。		使用教材資料 なし
具体的な取り組み内容 ・町探検や社会科見学で見学してきたことをもとに日野の町について考える。 ・日野の良さは何かに着目させ、自然、農家、神社、公共施設、歴史など自分の学習テーマを決め調べ学習をする。現地に出かけたり、詳しい人から話を聞いたりして、インターネットだけの調べ学習で終わらないようにし、日野のまちを身近なものであると実感できるようにする。 ・調べたことを新聞やスライドにまとめて、友達や保護者に発表をする。 考察 調べ学習や発表を通して、日野の町の良さを身近なものと実感でき、自分の住んでいる町を大切にしたいという気持ちを育てることができた。		

所属（第二幼稚園）授業者（山口 彩葉）（B）グループ

学年 4・5歳児	教科	単元名
学習テーマ 豊田 若宮神社		使用教材資料 今尾恵介監修 日野市旧桑田村の地名（豊田・川辺堀之内・上田・宮・下田・万願寺・新井・石田）
具体的な取り組み内容 ・神社とはどんな場所なのか・若宮神社にあるものの意味等についてのスライドを作成し、幼児と保護者に向けて伝えた。 ・園外保育で若宮神社に足を運び、宮司さんからお話を聞いたり、スライドでの話と結びつけながら境内や神殿の中を見たりする機会・例大祭に親子で参加する機会をつくった。 ・5歳児を対象とし、若宮神社にまつわる『民のかまど』の昔話の紙芝居作りをした。 考察 ・幼児にも伝わるように写真やイラストを用いて視覚化して伝えたり、実体験を多く取り入れたことで、若宮神社に興味をもって参加する幼児が多かった。 ・今回の郷土教育で教師が学んだことや作成した紙芝居を来年度以降も生かせるようにすることが今後の課題であると考えた。		

所属（南平小学校）授業者（山田 繭子）（B）グループ

学年 3年	教科 社会科	単元名 はたらく人とわたしたちの暮らし
学習テーマ 農家の仕事		使用教材資料 わたしたちの日野
具体的な取り組み内容 ・スーパーマーケットの野菜売り場や給食の食材を取り上げ、地元で生産されている農作物について疑問に思ったことをあげた。 ・日野市のホームページで日野市の農作物分布を調べた。 ・梨農家さんを訪ね、どんな工夫をしながら梨づくりをしているかについて話を聞いた。 ・見てきたことや分かったことを新聞にまとめた。農家さんが大変な作業を一年を通じて行っていることや、さまざまなところに梨を出荷していることが分かった。梨農家さんのご厚意で、給食で梨を食べることもできた。 考察 今回は、本校の近くの農家さんだけを取り上げたが、他の農家さんや農作物を取り上げることで、より日野の魅力を知ることができるのではないかと考える。教員が地域を知り、教材をもっと掘り下げていくことが必要だと感じた。		

所属（潤徳小学校）授業者（佐藤 恵美子）（C）グループ

学年 3年	教科 総合的な学習の時間	単元名 日野市の食べ物博士になろう
学習テーマ 給食を通して日野市の良さを知る		使用教材資料 給食の写真 日野市で作られ納品される野菜のリスト
具体的な取り組み内容 ・社会の授業を振り返りながら、日野市ではどのような農作物が作られているか話し合う。 ・給食の写真を見て、給食にも日野産の食材が使われていることを知る。 ・栄養士から、日野市で作られる野菜の旬や、日野市の農家から学校に食材が届くまでの工程を聞く。 ・日野産の食材を使う良さを考える。 考察 日野市の食材を使う良さを学び、旬のものを積極的に購入したいという気持ちをもつことができた。授業前に児童からの疑問を栄養士に伝えていたため、それに沿った話をしてもらえ、児童は自分事として興味深く考えることができた。その後、社会科見学で野菜農家、なし農家の方に会い、直接苦勞や願いを聞いたことで、給食がより楽しみになったり、残飯が減ったり、心を込めて「いただきます。」の挨拶ができるようになった。		

所属（日野第四小学校）授業者（渡辺 大）（C）グループ

学年 5 年	教科 総合的な学習の時間	単元名 給食自慢をつくろう
学習テーマ 郷土愛を育む	使用教材資料 ・ 献立表 ・ 郷土資料館給食展内資料	
具体的な取り組み内容		
・ 献立表から、日野市産の食材がどの程度使われているかを調べ、なぜ日野市産の食材がたくさん使われているかという問いのもと、調べ学習を行った。 ・ 郷土資料館で展示されていた、日野市の給食の歴史や、トマトピューレの活用などの資料を用いて調べ、一人一人が日野市の給食の良さを言葉で表現し、付箋に書いたものを集め共有した。 ・ グループで伝えたい良さを話し合い、ポスターやスライドに表現し、校舎内や校門などに掲示し学んだ内容を広める活動につなげた。		
考察		
日野の学校給食の良さに気付き、広める活動をすることで、郷土愛を育むきっかけとなった。		

所属（日野第八小学校）授業者（船引 颯太）（C）グループ

学年	3年	教科	総合的な学習	単元名	八小の給食のよさをしょうかいしよう	
学習テーマ		給食の良さから考える		使用教材資料	・献立表 ・給食写真 ・社会科見学写真	
具体的な取り組み内容						
・社会科の「日野市の農家の仕事」の学習を振り返り、日野市で生産されている野菜や、給食に使われていることを思い出す。 ・社会科見学で学んだ、農家の工夫や思いを思い出す。 ・ひのっ子学び展の給食に関する資料を提示し、日野市の給食の工夫について知る。 ・日野市の給食の良さ、八小の給食の良さを見つけ、共有する。 ・見つけた良さをポスターや新聞などで紹介する。						
考察						
・身近な給食に着目することで、「八小の給食の良さを紹介したい」と、主体的に取り組むことができた。						

所属（夢が丘小学校）授業者（高久 直）（C）グループ

学年 5 年	教科 社会	単元名 これからの食料生産
学習テーマ 国内の食料生産の課題を 解決するための取り組み	使用教材資料 本物工房 ひのトマトまるごとピューレ	
具体的な取り組み内容		
・ 日本国内の食料自給率の変化から課題をつかむ ・ 食料の輸入について生産者の立場、消費者の立場で長所と短所を考える。 ・ 国内の食料生産が向き合う課題について気付く ・ 地産地消や食品ロスの問題を知る。 ・ 日野市のトマトピューレの取り組みを知る。 ・ 生産者を含め、日野市の様々な立場の人の思いのもと取り組んでいるということに気付く。		
考察		
・ 身近な学校給食を取り上げたことで興味をもって、考えたり調べたりすることができた。		

所属（日野第三小学校）授業者（岡村 大地）（D）グループ

学年 3年	教科 総合的な学習の時間	単元名 「梨博士になろう」「東光寺大根博士になろう」 「ふるさと安全隊になろう」
学習テーマ 地域の農業, 防災	使用教材資料 指導事例集	
具体的な取り組み内容		
・多摩川梨と東光寺大根の栽培を見学し、興味の生まれたことを調べ、まとめた。 ・栽培されている地域の違いに着目し、起こる災害とその対処法を考え、まとめる。 （指導計画作成、授業資料を調べる段階で、指導事例集アーカイブを検索し、活用した。）		
考察		
・単元計画を参考にすることができ、自校にあわせた計画を立てることができた。 ・防災というテーマで資料がまとまっており、資料として扱いやすく、適切に参照できた。		

所属（日野第七小学校）授業者（小林 彩香）（D）グループ

学年 4 年	教科 社会科	単元名 東京都の発展に尽くした人々
学習テーマ 玉川上水	使用教材資料 2016(12) 4年社会「水のきれいな町ー玉川上水の学習を生かしてー」	
具体的な取り組み内容		
・玉川上水の概要、日野との結び付きを知る。 ・玉川上水の水路の決め方、工事の仕方、配管の仕組みや工夫、分水について調べる。 ・調べたことをもとに、人々の生活の変化や、現在の私たちと結び付けて考察する。 ・学んだことを生かし、日野用水について調べ、理解を深める。		
考察		
・玉川上水と日野の結び付きを知ることで、意欲的に学習に取り組めた。 ・玉川上水と日野用水の比較をすることで、理解をより深められた。		

所属（仲田小学校）授業者（柿崎 麻理子）（D）グループ

学年 4年	教科 総合的な学習の時間	単元名 多摩川とともに生きる
学習テーマ 多摩川を探索し、各自の探究課題を設定する。	使用教材資料 2007(3)4年総合「多摩川を渡ろう」 (指導事例集より)	
具体的な取り組み内容		
◎指導事例集アーカイブを検索して、指導案や資料を活用した。(検索キーワード:「多摩川」)		
・多摩川を探索し、各自の探究課題を設定する。 ・パンフレット、インターネット、過去の文献、インタビュー等により探究課題を解決するための情報を収集する。 ・ポスターやスライド等を作成し、分かったことをまとめる。 ・学級で発表会を実施し、多摩川と自分との関わりについての考えを深める。		
考察		
・指導事例集で単元計画を参考に、自校の実態に合った形となるよう修正していくことで、教材研究の質及び効率を向上させることができた。 ・事例集の資料を学習に取り入れることで、児童に適切な資料を提示することができた。		

～ 編集後記 ～

【宮崎 友和：郷土教育推進研究委員会担当指導主事】

郷土教育推進研究委員会は、第3次日野市学校教育基本構想が掲げる「地活」を具現化する研究を進めてきました。これまでの研究成果により、子供たちが郷土という最も身近な教材で見方・考え方をより働かせ、探究的に学ぶとともに、子供たちに日野を愛する心を育む教育活動が、日常的に実践されるようになりました。

今回報告された皆様の実践や指導事例集検索システムは、令和6年度からの第4次日野市学校教育基本構想に基づく実践にも活用できるものです。各学校において、郷土教育の充実がより一層図られることを期待しております。

本委員会へのご指導・ご助言をくださいました顧問の先生方、日野市の郷土教育の推進、充実、発展にご尽力くださいました委員の皆様に感謝を申し上げます。

【秋田 克己：郷土教育推進研究委員会副委員長 日野第三小学校副校長】

この1年は過去の実践を基に、新しい実践を築くという取組を実現することができました。温故知新の研究ができたものと考えています。

本推進研究委員会では授業実践を永年積み重ね、実践事例集として記録を残し、授業づくりの参考となる情報を提供してきました。しかし、200本近くになった事例から地域・学校・子供の実態に合った実践を見つけ出すことが難しくなってきました。そこで、令和4年度に検索システムを開発し、今年度は教材研究の材料として実用化しました。キーワードを入力すると目的としている情報によくつながることから、多くの先生方に、利活用していただけるものになったと考えております。

今後、検索システムの情報に今年度の実践を加え、さらに内容を充実させていきます。各小学校から選出された委員の皆様、授業づくりにあたりご協力いただいた1課2館の皆様の熱意に感謝申し上げます。

7月25日（火）夏季研修会
午前 日野宿周辺フィールドワーク



7月25日（火）夏季研修会
午後 小杉顧問による講義



10月24日（火）



七生緑小
研究授業



滝合小
研究授業



旭が丘小
研究授業



東光寺小
研究授業

郷土教育推進研究報告書

令和5年度（2023年度）

「郷土日野」指導事例

～第18集～

令和6年3月31日発行

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会